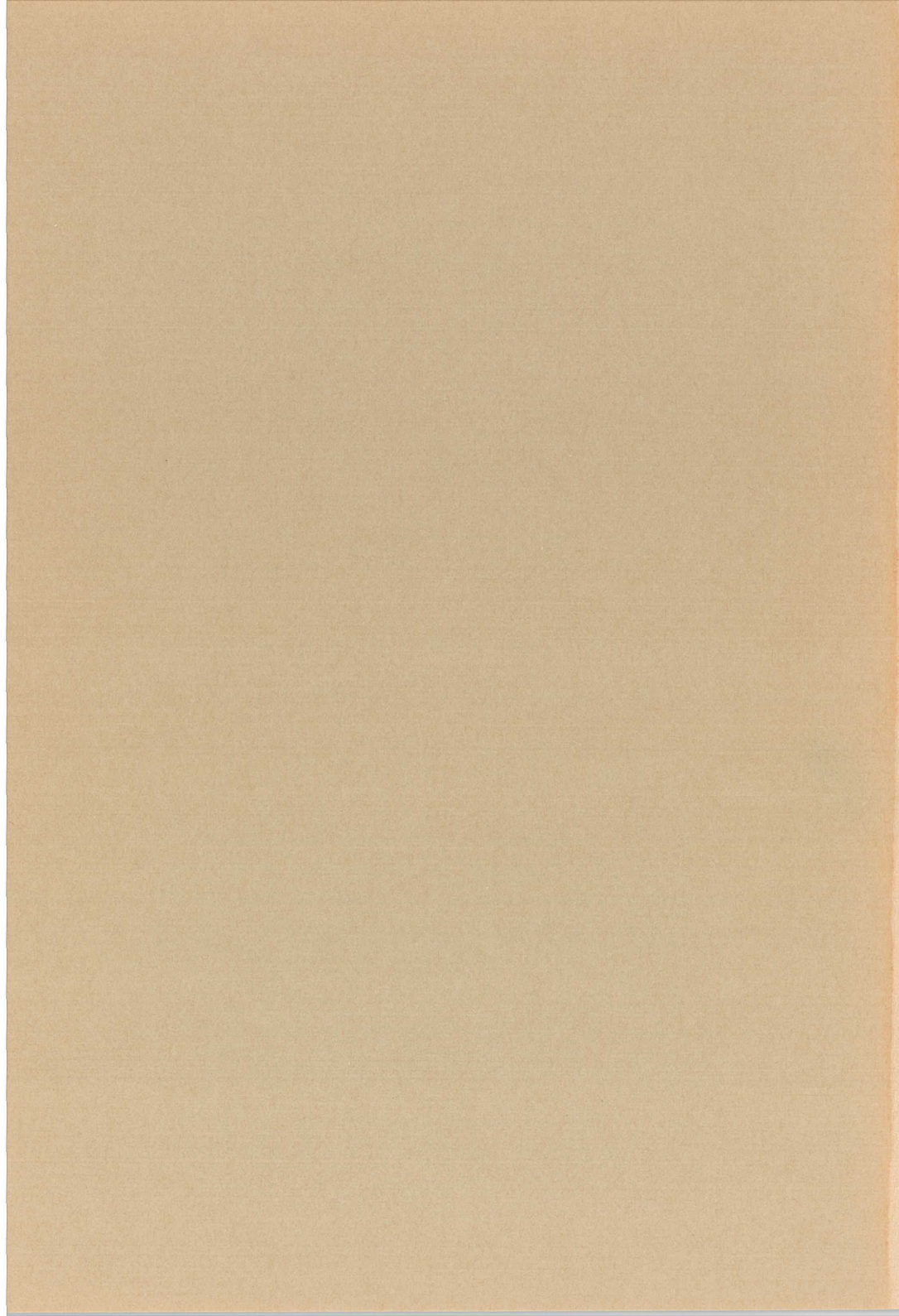


ISSN 1344-476X

財団法人 東洋文庫年報  
平成 11 年度

財団法人 東洋文庫



目次

I	図書事業	1
1.	資料の収集	1
2.	資料の整理	2
3.	資料の利用と複写サービス	3
4.	書庫資料の見学と研修	6
5.	資料の保存整理と複製	7
6.	業務の機械化	8
7.	書庫内資料と書架スペース	9
II	研究事業	11
1.	調査研究	11
i	文部省科学研究費による調査研究	11
ii	一般調査研究	17
iii	特別調査研究	20
iv	その他の研究助成金による事業	21
v	研究委員会	26
2.	学術図書出版	27
3.	講演会	28
4.	研究会（東洋文庫談話会）	29
5.	学術情報提供	30
i	研究者養成	30
ii	研究者の交流および便宜供与のサービス	30
iii	研究会等への会場提供サービス	36
iv	研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	36
v	参考情報提供サービス	36
6.	職員の研究業績	36

Ⅲ 業務報告	51
1. 総務報告	51
2. 人事報告	52
Ⅳ 役職員名簿	54
1. 役員	54
2. 東洋学連絡委員会委員	55
3. 名誉研究員	55
4. 職員	56
5. 臨時職員	59
Ⅴ 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	60
1. ユネスコ協力事業	60
2. 学術情報事業－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－	61
3. コンピュータネットワーク事業	66
4. 重要文献の研究・保存事業	
－アジア重要文化財（文献）の研究・保存－	67
5. フランス国立極東学院学術交流事業	68
6. 業務報告	69
7. 役職員名簿	71

# I 図 書 事 業

## 1. 資 料 の 収 集

### (1) 資料購入

資料購入費の支出総額は19,849,101円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)	非図書資料
一般文献資料	223	64	287	0
中央アジア特別研究資料	848	347	1,195	0
東アジア特別研究資料	1,261	0	1,261	0
西アジア特別研究資料	348	537	885	0
東南アジア特別研究資料	0	345	345	0
アジア特定資料	25	223	248	0
チベット特別研究資料	11	59	70	0
近代中国特別研究資料	628	44	672	0
計	3,344	1,619	4,963	0

おもな購入資料としては、以下のものがある。

新編中華人民共和国地方志叢書	282冊
統修四庫全書 301-800 史部	500冊
蒙文中国古典小説 2種	2 帙15冊
中国発行中央アジア諸言語資料	136冊
アラビア語資料	232冊
パキスタン発行南アジア諸言語資料	186冊

### (2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)	国内 (冊)	国外 (冊)	計 (冊)
単 行 本	705	361	1,066	2,268	804	3,072
定期刊行物	2,456	585	3,041	3,362	2,777	6,139
計	3,161	946	4,107	5,630	3,581	9,211

主な受贈資料としては、以下のものがある。

民族文化推進会寄贈	影印評点韓国文集叢刊 201-220巻	20冊
同上	承政院日記 86-107巻	22冊
国立国会図書館寄贈	中央アジア関係洋書	50冊
李樹楓氏寄贈	開明書店版二十五史及補編	15冊
科研費「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」班寄贈	東北アジア地域関係中国書	61冊
Dr. Muin ud-din Aqeel 寄贈	パキスタン発行資料	74冊

資料室では文庫刊行物以外の図書を交換用資料として活用し、近代中国研究室の協力を得て作成した交換用図書リストを海外の諸機関に送付している。今年度は下記の4機関に要望のあった資料を寄贈した。

交換機関	送付リスト	送付資料点数
中華民国国家図書館	中文・和文・欧文/図書、Video Tape 87点	35点
大韓民国国会図書館	中文・和文・韓文/図書、CD-ROM 75点	36点
	中文(大陸発行)・欧文/雑誌 59タイトル	4タイトル(51冊)
国立政治大学中正図書館	中文(大陸発行)・欧文/雑誌 59タイトル	15タイトル(170冊)
中国国家図書館	中文・和文/図書、Video Tape 100点	16点

### (3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は849,277冊で、和漢書490,021冊、洋書335,816冊、複写資料23,440冊である。

なお、今年度には新たに複文庫図書25,667冊および岩見文庫図書2,401冊が加わった。

## 2. 資料の整理

### (1) 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	1,431冊
欧米語図書	347冊
ペルシャ語図書	173冊

整理したおもな図書は以下のとおりである。

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (1) 新編中華人民共和国地方志叢書 | 249冊 |
| (2) 四庫全書存目叢書 經部、集部 | 620冊 |
| (3) 光緒朝朱批奏摺 81-120 | 40冊  |
| (4) 愛新覺羅宗譜         | 31冊  |

## (2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録 47』76p

## (3) 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文14タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	634	173	2,456	585
購入	196	96	1,150	433
小計	830	269	3,606	1,018
計	1,099		4,624	

## (4) 新聞

本年度は18種（何れも中文）受入れた。

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて869冊であった。

# 3. 資料の利用と複写サービス

## (1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は322名で、内訳は教職員56名（外国人23名）、研究機関関係者24名（外国人14名）、大学院生90名（外国人31名）、大学生133名（外国人4名）、その他16名であった。

閲覧開館日は229日、利用者数は4,056名、利用資料数は55,761冊で、詳細は下記のとおりであった。

近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ697名、1,735冊であった。内訳は中文1,038冊、日文602冊、欧文95冊であった。なお、当資料の貸出は平成11年12月24日を

以って停止した。

東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ1,869名、5,247冊であった。

#### 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成11年 4月	20 <sup>(日)</sup>	248 <sup>(人)</sup>	12.4 <sup>(人)</sup>	6 <sup>(人)</sup>
5	17	290	17.1	△47
6	21	343	16.3	△2
7	20	368	18.4	△13
8	21	413	19.7	△40
9	19	364	19.2	△66
10	19	451	23.7	1
11	18	395	21.9	△93
12	17	412	24.2	19
平成12年 1	17	243	14.3	6
2	19	258	13.6	△14
3	21	271	12.9	△70
計	229	4,056	17.7	△315



## 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成11年 4月	101	138	525	2,514	131	209	757	2,861	143.1	△34
5	179	336	661	3,463	138	258	978	4,057	238.6	195
6	270	463	779	3,659	166	262	1,215	4,384	208.8	123
7	204	296	703	3,559	170	289	1,077	4,144	207.2	△1,170
8	299	507	904	5,662	285	468	1,488	6,637	316.0	△1,157
9	234	329	862	5,601	162	261	1,258	6,191	325.8	△4,447
10	253	407	946	4,650	224	361	1,423	5,418	285.2	42
11	146	263	989	5,638	133	298	1,268	6,199	344.4	△1,309
12	369	718	740	3,198	211	932	1,320	4,848	285.2	361
平成12年 1	111	195	483	1,875	148	366	742	2,436	143.3	△508
2	126	175	553	3,563	133	238	812	3,976	209.3	183
3	142	236	607	3,904	154	470	903	4,610	219.5	8
計	2,434	4,063	8,752	47,286	2,055	4,412	13,241	55,761	243.5	△7,713
比率	7.3%		84.8%		7.9%		100%			

### (2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
488	38,103	7,348	4,733 <sup>マ</sup>

電子複写

申込件数	焼付枚数
717	29,217

### (3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて1,053件であった。

#### (4) 資料の貸出

本年度は、博物館・美術館等が主催して行う展覧会への資料の貸出はなかった。

### 4. 書庫資料の見学と研修

申請は28件あり、349名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。

なお、このほかに当日申込の書庫見学が84件157名あった。

	実施日	申請者	参加者	人数(名)	主な内容
	平成11年				
1	4月16日	王 鶴 鳴	上海図書館代表团	5	書庫内資料見学
2	5月17日	八尾師 誠	東京外国語大学ペルシャ語専攻学生	26	〃
3	5月19日	佐藤 次高	東京大学文学部東洋史専攻学生	20	〃
4	〃	三浦 徹	お茶の水女子大学文教育学部 比較歴史学コース学生	10	〃
5	5月21日	松重 充浩	広島女子大学国際文化学部教職員・学生	5	〃
6	5月25日	中村 義	二松学舎大学文学部大学院教職員・学生	20	〃
7	5月28日	シン インヨン	韓国国立中央図書館代表团	3	〃
8	6月14日	高田 幸男	明治大学文学部史学地理学科 東洋史学専攻学生・教職員	12	〃
9	6月15日	林 佳世子	東京外国語大学外国語学部 南西アジア課程トルコ語専攻学生	14	〃
10	6月17日	三輪由美子	国立国会図書館職員	24	〃
11	〃	三菱広報委員会 事務局	三菱広報委員会三菱ゆかりの地 バス・ツアー参加者	35	〃
12	6月23日	菅野 裕臣	神田外語大学教職員・学生	7	〃
13	6月28日	金 容 媛	韓国教育部学術振興財団支援研究チーム	7	〃
14	7月5日	深津 行徳	立教大学文学部東洋史専攻学生・教職員	10	〃
15	7月13日	坂本 勇	ベトナム国家文書局調査団	4	〃
16	7月15日	白井佐知子	東京外国語大学外国語学部 中国語専攻学生・教職員	20	〃
17	7月19日	山本由美子	川村学園女子大学教職員・学生	14	〃
18	10月1日	小松久男	立教大学文学部史学科学学生	9	〃
19	10月6日	原 洋之介	東京大学東洋文化研究所漢籍整理長期研修	12	所蔵資料について

			研修生・職員		での研修および 書庫内資料見学 書庫内資料見学
20	10月22日	稲嶺 恵一	中国第一歴史檔案館一行	4	
21	11月9日	高橋 史郎	三菱広報委員会事務局長ほか	3	〃
22	11月10日	清水 裕子	フランス国文字文化研究センター センター長ほか	3	〃
23	11月15日	三菱広報委 員会事務局	三菱広報委員会三菱ゆかりの地見学会	25	〃
24	11月18日	鈴木 和子	静硯書道会	14	〃
25	11月25日	山内 弘一	上智大学文学部史学科学生・教職員	12	〃
26	12月8日	鈴木 秀子	私立大学図書館協会東地区部会研究部 西洋古版本研究分科会	10	〃
27	12月20日	楠木 賢道	筑波大学歴史・人類学系東洋史専攻学生 ・教職員	16	〃
	平成12年				
28	1月21日	尾崎 文昭	中国社会科学院文学研究所研究員 東京大学東洋文化研究所教授	5	〃

## 5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。作業項目と内容は下記のとおりである。

### (1) 漢籍地方志

継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ-11-Bj-101~102、105、111、Ⅱ-11-Bk-5~8、10、13、14、17、24までをを対象。

裏打ち 4,405葉、綴じ直し 139冊、帙作製 16ヶ

### (2) 貴重洋書 (Old books)

継続している作業で本年度は、分類記号O-3-B-73~124、O-3-C-1~125を対象。

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製 297冊、補修 156枚、再製本 1冊

### (3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本（洋、和）18冊、再製本と簡易製本 153冊、ラッパー及び帙作製 55ヶ、  
補修 3,558枚、クリーニング 7冊

(4) 資料の撮影 31,428コマ

対象資料：漢籍稀観書

(5) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製 58リール

撮影した漢籍稀観書および安南本のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製を行った。

(6) 資料の複製と他機関取り寄せフィルムからのプリント 11,000枚

米国議会図書館所蔵旧国立北京図書館善本を対象にプリントした。

## 6. 業務の機械化

東洋文庫全体として均質な目録を作成するために、一方では統一的な目録規制を整備・試行中であるが、他方では資料整理の流れ（受入－整理－排架）を単線化することに努めた。これまでは受入の状況に応じて様々な部署で整理作業が行われていたが、目録データベースへの入力作業を一ヶ所に集中することにより作業の重複や無駄を省いた。

## 7. 書庫内資料と書架スペース

### (1) 書庫内資料の排架一覧と新規排架およびおもな調整箇所

階	1号棟	新規排架・調整箇所	2号棟	新規排架・調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満州本、蒙古本、和書（XIII～XVII・大型）		/	
5	Old Books, PB, MS、漢籍稀観書、岩崎文庫、銅版画、古地図、梅原考古資料、辻文庫、榎文庫 Old Books・綴装本	榎文庫 Old Books・綴装本		
4	洋書（I～XI・大型）、第IIモリソン文庫、ベラルデ文庫、アジア諸語資料、ロシア語別置資料		トルコ語資料、榎文庫、岩見文庫、アジア諸語資料、チベット語資料	榎文庫、岩見文庫
3	漢書（経部・子部・集部・叢書・大型）、日本語・ハングル新着雑誌	日本語・ハングル新着雑誌、叢書	洋書（XIII～XVII・XIX）、モリソンパンフレット、アラビア語資料、ペルシア語資料	
2	漢籍（史部）		近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物（日・中・朝・洋新聞）中国語・欧文新着雑誌	中国語・欧文新着雑誌	逐次刊行物（欧文）	

### (2) 書庫問題

本年度は恒常的に入庫する資料の他に、新たに榎文庫図書約26,000冊および和・漢・欧文の新着雑誌を取めた。

なお、新着雑誌の書庫内排架は、平成12年4月よりこれら雑誌を閲覧に提供するための措置である。

本年度の主な資料移動は以下のとおりである。

1. 榎文庫図書を2号棟4階に新規に排架した。
2. 1号棟3階の漢籍叢書資料の移動・調整を行い、空いた書架に日本語およびハングルの新着雑誌を排架した。

3. 1号棟1階、駒込警察署側通路壁面に書架を新設し、中国語および欧文の新着雑誌を排架した。
4. 前年度に於いて、1号棟5階貴重書庫を調整し、岩崎文庫を移動して作りおきした書架スペースに、榎文庫洋書オールドブックスおよび線装本を排架した。

数年前既に満杯状態にある書架スペースを、昨年度資料を大幅に入れ替えることによって危機的状況を脱したかに見えた書庫の飽和状態は、資料の新規入庫によって一段と深刻なものとなった。新書庫建設が望めない現状では、通路に書架を増設するなどの施策のほかに、昨年度も提案しているところであるが、資料の大胆な選択受入れ、大量別置、処分等を真剣に考慮すべき時期が到来していると言えよう。

## Ⅱ 研 究 事 業

### 1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省の国庫補助金および科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費あるいは東洋文庫学術情報提供事業費などによるものにとわかれる。

#### ⅰ. 文部省科学研究費による調査研究

##### 基盤研究(A)―(2)

【課 題】 「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」

【期 間】 平成11年度（4ヶ年間継続採用・第3年度）

【目 的】 ；

今回の研究は、17世紀以降20世紀初頭に至る時期の、東北アジア（中国東北、朝鮮、ロシア極東・シベリア・モンゴル）の文化と民族関係に焦点をあてる。この時期の東北アジアに関する資料は、満洲語、漢語、朝鮮語、モンゴル語、そしてロシア語をはじめヨーロッパ諸語など、様々な言語で記述されているが、これら資料相互の体系的な検討はいまだなされたことがない。本研究の目的は、様々な資料のうえにあらわれた東北アジア諸民族のすがたを、満洲語文献班、朝鮮語文献班、漢籍班、ヨーロッパ諸語文献班の4班に分けて、比較考察しようとするものである。

【研究実績概要】 ；

東洋文庫には、本研究を遂行するために基礎となる資料がかなり所蔵されているが、いまだ足りない部分が少なくない。本研究計画によって、とくに不足している近年刊行された文献、および資料公開によって入手可能となったマイクロ資料などを重点に、東北アジア関係資料・文献をできる限り体系的に収集し、基礎資料の整備をはかるとともに、今後の一層の研究に役立てたい。

- (1) 本年度は、前二年度に継続し、東洋文庫に収蔵されている東北アジア民族誌関係文献（とくにモンゴル語資料）のデータベース化をすすめた。
- (2) 同時に入手すべき資料の年次別収集計画については、本年度はとくに中国第一歴史檔案館、故宮博物院図書館をはじめとする中国国内図書館・研究機関の所蔵資料（とくに満洲語資料）の調査とマイクロ撮影に重点を置き、このため班員二名を派遣した。さらに欧米語関係文献の収集については、おもにロシア語文献の

収集を心がけた。

- (3) また日本国内では、東洋文庫未収の東北アジア文献を所蔵する北海道大学図書館、大阪外国語大学図書館、沖縄県立図書館などで主として満洲語、ロシア語文献を調査し、データベース化を継続した。

【研究代表者】 松村潤研究員（統括）

【研究分担者】 ；

満洲語文献班：松村潤、石橋崇雄

朝鮮文献班：山内弘一、大井剛

漢籍班：神田信夫、加藤直人

ヨーロッパ諸語文献班：中見立夫、C. A. ダニエルス（以上、計8名）

## 基盤研究(B)

【課題】 「ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究」

【期間】 平成11年度（3ヶ年間採用〈追加採択〉・初年度）

【目的】 ；

モンゴル帝国及びポストモンゴル期の諸国家の多くは、モンゴル語・トルコ語を話す王族を支配者に戴く部族連合国家であり、これらの諸国家に関する史料は多くがペルシア語を中心とする西アジアの諸語で記されている。国家構造、生活様式、風俗、習慣、法律、言語を異にする定住イラン人等がモンゴル系・トルコ系遊牧民とその国家について記したこれらの史料を字面どおりに読めば、必然的に「西アジア」、「イスラム」、「定住民」の常識に引き寄せられて理解することになる。19世紀以来の西洋の研究者達は、こうした扱いにくい西アジア諸語史料の字面を、「西洋の下位に立つアジア、特に野蛮で未開の遊牧民」という極めて独善的な前提のもとに読んだ。このため多くの遊牧系の国家が遊牧支配者層を欠いた実体とは大きくかけ離れた姿で理解され続け、現在まで及んでいる。

本研究は、既にその国家構造が解明されたモンゴル帝国に続き、ポストモンゴル期の諸国家について、ペルシア語を中心とする西アジア諸語史料の良質写本を利用して、字面の奥深くに潜む遊牧支配者層の姿や遊牧国家固有の要素を抉り出し、その国家構造を明らかにすることを目的とする。併せて、これら諸国家の匈奴以来の遊牧国家史上に占める位置とその世界史的意義を明らかにすることを目的とする。

【研究実績概要】 ；

- (1) 研究代表者、研究分担者が所属する各機関で既に収集したペルシア語写本を中心とするマイクロフィルムを焼付け、焼付け本と大量のコピーを作成した。



- (2) 各研究分担者は(1)で作成した当該帝国の重要史料から遊牧国家固有の述語とその用例を網羅的に抜き出し、手書きカードを作成した。翻訳されて一見普通名詞の如く記されている語については特に留意した。
- (3) モンゴル帝国班は(2)の作業と共に漢文史料を用いて同様の作業を行い、ポストモンゴル期の諸帝国との比較の基準となる「モンゴル帝国関係述語一覧」の作成に着手した。

【研究代表者】 志茂碩敏研究員（統括）

【研究分担者】 杉山正明（モンゴル帝国）、小山皓一郎（オスマン帝国）、川口琢司（ティムール帝国、ムガル帝国）、小野浩（カラコユンル朝、アクコユンル朝、サファヴィー朝）、堀川徹（ウズベク・カザフ・カガンアストラハン諸汗国）

#### 研究成果公開促進費（データベース等）

【名称】 「東洋学総合情報システム」（A Comprehensive Information System of the Asian Studies）（東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫）

【期間】 平成11年度（平成6年度新規採用・以降、単年度ごと申請）

【分野】 「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」

【目的】 ；

本データベースは、アジア諸国語によって書かれた文献を中心に、所蔵目録、解題目録、目次表、古典の文献の全文テキスト、写本画像などのデータベース作成を目指す。東洋文庫は東洋学に関する日本最大の図書館であり、その蔵書目録を簡便に検索できるようにしてほしいとの要望は大きい。これらについて、館内での作業および検索に際しては、欧文・和文は言うに及ばず、アジア諸言語についても、できうる限りオリジナルの文字を使用し、やむを得ない場合でも学界で標準的に用いられている転写文字を使用して目録データの入力・表示を行うことによって、コンピュータ上でも正確で利用しやすい情報蓄積が可能となる。これら特殊語を同一のフォーマットのもとでデータベース化する試みは他に類を見ない。

また、所蔵目録のみではなく、テキストデータや目次、索引などもデータベース化して入力することにより、同一のデータから紙媒体での印刷、インターネットでの簡便な情報提供、各言語の文字を使用したデータベースでの公開など、複数の公開手段を使って、できる限り多くの研究者に利用していただけるようにしている。

平成8年度から順次 CD-ROM および Internet によるファイルの配布を始めて

いる。平成10年度からは内部でもデータベースの検索ができるようになった。

**【事業実績概要】**；

東洋文庫所蔵のアジアの諸言語文献についての書誌目録データベース、各種索引、全文入力テキストデータベース、およびアジアに関する研究文献の目録データベースなどを、できうる限りオリジナルの文字にて作成する。東洋文庫電算化委員会では、平成6年度から組織的にデータベースの入力を始め、アラビア語、トルコ語、チベット語、ウイグル語、ペルシア語、トルコ語、オスマン語、中国語、欧文、ロシア語、和文の蔵書目録のデータベースを始めとして、チベット語による定義集、目次集、テキストデータなど各種のデータベースを作成している。平成8年度および平成10年度に、公開可能なデータベースをCD-ROMに収録して刊行した。またインターネット上でも、簡単なオンライン検索を始めている。

平成11年度は、従来データベースを引き続き作成したほか、数年前に作成したアラビア語、現代トルコ語、逐次刊行物のデータベースをアップトゥデートし、また新たにウルドゥー語、漢籍、モンゴル語の蔵書目録の入力・校正を始めた。インターネット上では、アラビア語・ペルシア語・チベット語などの特殊文字による情報公開を実施した。

**【作成代表者】** 北村甫・東洋文庫電算化委員会委員長

**【作成分担者】** 石井米雄、佐藤次高、斯波義信、小名康之、福田洋一の各委員

## 文部省新プログラム方式による創成的基礎研究

**【課題】** 「現代イスラーム世界の動態的研究－イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積－」（研究代表者・佐藤次高東京大学教授）

**【期間】** 平成11年度（平成9年度新規事業・5ヶ年間・第3年度）

**【目的】**；

本研究の第一の目的は現代のイスラーム世界をその動態において解析することである。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、ロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカをも含んでいる。もちろんわれわれが対象とするのは、宗教としてのイスラームに限られない、文明としてのイスラームである。このようなイスラーム世界に着目すると、ここには豊かな歴史と伝統をそなえた独自の文明とともに、民族問題・地域紛争・人口爆発・環境破壊・政治の民主化と人権の問題など、現代世界が直面する重要な問題が集約的に見いだされる。本研究はこのように多様

な地域の諸問題をイスラームをキーワードとして総合的に理解することをめざす。

第二の目的は、このような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。ここでは、思想・宗教・政治・経済・歴史などの学問領域を越えた学融合を試みるとともに、国際的な共同研究の基盤の整備をはかり、三次元地理情報システム、多彩なデータベースの構築などを実現するためのコンピュータ技術の積極的な開発・応用を試みることになる。

第三の目的は、次代のイスラーム地域研究を担う若手研究者の育成であり、あらゆる機会に若手研究者の参加を募るほか、日本学術振興会特別研究員の制度を活用して内外の若手研究者の育成につとめる。本研究は、以上の活動をとおして21世紀の世界の動向を左右するイスラーム世界の動態を把握し、「実証的な知の体系」を築き上げることを目的とする。

また、研究の全体を統轄するために研究代表者を中心とする総括班を組織し、その下で6つの研究班、すなわち「イスラームの思想と政治」・「イスラームの社会と経済」・「イスラームと民族・地域性」・「地理情報システムによるイスラーム地域研究」・「イスラームの歴史と文化」・「イスラーム関係史料の収集と研究」などの研究班が、個々の研究課題に即して、研究会の開催、研究者の海外派遣と海外からの招聘、国際研究集会の開催などの活動を展開することとする。(以下、略)

#### 【第6班研究課題】 「イスラーム関係史料の収集と研究」

##### 【目 的】 ；

東洋文庫に拠点をおく本班は次の2点を目的にイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究を行う。

- (1) まず、本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担い、前近代イスラーム地域研究に必要な各種資料をひろく収集する。さらに収集された図書出版物の有効利用のため、図書情報のデータベース化、オンライン情報提供を行う。永年の現地語資料収集・図書データベース構築の経験をもつ東洋文庫の技術的蓄積を本プロジェクトに利用すると同時に、他研究機関との連携強化、収書対象地域の拡大などを通じ、東洋文庫の研究センターとしての機能を高めることが本班の目的のひとつである。
- (2) イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための基礎的研究を行う。ここでは主に写本や文書などの歴史一次史料を対象とする。一冊の写本、一枚の文書に内在する世界と、それらが時代を越えて現存するにいたった背景を理解することは、それぞれの地域の文化や歴史を理解することに他ならない。本研究では、歴史文書や写本がもつ固有の構造を史料学的に検討することを通じ歴史的なイスラーム地域の基層構造に光をあてることをめざす。また、

それぞれの史料の性格に合致した手段のデータベース構築を行い、それを利用した新しい歴史研究手法の開拓を試みる。

なお5ヶ年計画の本研究においてすでに完了した2年は、第1課題を中心に活動を展開してきた。その活動の順調な進展を受け、3年度目以降は併せて第2の課題を追究することになる。班の名称を3年目より「イスラーム関係史料の収集と研究」に変更する理由はこの点にある。

【研究実績概要】；

(1) 前近代イスラーム関係資料の収集と図書情報のデータベース化

本年度も、前年度にひきつづき前近代イスラーム関係資料の系統的な収集を実施した。収集資料は図書を中心とするが、マイクロフィルム、電子出版物などの収集も積極的に行った。収集した資料の図書データは、各言語の固有文字をもちいてデータベース化した。東洋文庫では永年にわたり多言語図書情報データベースの構築にとりくんできたが、その技術をここに利用することをえた。構築されたデータベースは、CD-ROM版東洋文庫所蔵カタログに収録され、プロジェクト参加者に頒布した。また、東洋文庫の所蔵データベースと合体した上で、インターネット上でのオンライン検索による当該データベースの利用に提供した。

(2) 歴史史料に関する史料学的研究

イスラーム世界各地には、写本、文書のかたちで、多数の歴史史料が残されてきたが、現地における史料整理のおくれなどから所在状況やその内容が十分に知られているとはいえず、それらを用いた研究は端緒についたばかりである。このような現状に鑑み、本班ではペルシア語文書、オスマン語文書（政府文書、法廷文書、テメトゥアート台帳など）、宮廷儀礼に関するアラビア語写本などに関する研究会・ワークショップ・セミナーなどを実施し、これらの史料群にたいする理解を深めることをえた。

(3) イスラーム地域研究へのコンピュータ利用に関する研究

イスラーム地域研究にかぎらず、書誌情報や史料に含まれるデータを効率的に扱うためにコンピュータが有効な手段を提供していることは議論をまたない。しかし、日本におけるイスラーム地域研究の現場においては、その必要性和可能性に比べ、十分な活用が行われているとはいいがたい。本班では、(1)(2)の各活動を支援することを主な目的に、アラビア語と日本語を中心とした多言語環境、アラビア語図書情報オンライン化、イスラーム地域研究に有効なインターネット利用などのテーマに関する情報収集と研究を実施した。イスラーム地域研究者のニーズと技術的な現状との接点を明らかにすることがここでの目的である。

〔平成11年度具体的な研究実績内容〕；

(1) 資料収集（中東・中央アジア地域；文学関係）、書誌情報のデータベース作成、

インターネット上でのオンライン検索システムの構築。

- (2) ペルシア語文書研究会、および、国際ワークショップの実施。
- (3) オスマン語文書研究会、および、セミナーの実施。
- (4) アラビア語写本史料研究会の実施。
- (5) イスラーム地域研究とコンピュータ利用に関する研究会の実施。

【第6班研究代表者】 北村 甫・(財)東洋文庫理事長

【研究分担者】 ；

統括：北村甫、永田雄三

トルコ関係史料：永田雄三、清水宏祐

林佳世子（兼・オスマン帝国資産台帳研究主宰）

イラン ク ：志茂碩敏、清水宏祐

アラブ ク ：三浦徹（兼・書誌情報データベース化）

中国・中央アジア関係史料：梅村坦

南・東南アジア ク ：小名康之

## ii. 一般調査研究

本年度は、特に、宋代史研究委員会、清代史（満蒙）研究委員会を中心に調査研究を進めた。

（研究部12研究委員会の各委員会の中の研究課題の後に付された●印は、文部省国庫補助金事業費および東洋文庫学術情報提供費を使用して主に重点的に事業担当したことを表す。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、つぎの「iii. 特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表わす。）

### 東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

### 古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。  
6月19日(土) 村上陽子「漢代の庖厨図」  
10月22日(金) 王 震中「近五十年中国古代国家起源研究的回顧与思考」  
12月10日(金) 呂 静「春秋時代の盟誓機能について～法の淵源としての盟誓に関する基礎的研究」

- ② 中国古代史研究会（中国古典籍の読書会）の開催。（以上、前年度の継続）
- ③ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

#### 唐代史(敦煌文献)研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献及びそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。
- ④ 敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集V「補遺編」の研究・編集●。
- ⑤ 内陸アジア出土古文書研究会の開催。（以上、前年度の継続）
  - 5月15日(土) 趙 声良「榆林窟の出水画について」  
池田 温「敦煌関係近刊の簡介」
  - 6月19日(土) 王 恵民「敦煌壁画研究的新進展」
  - 9月18日(土) 土肥義和「敦煌莫高窟供養人図像題記の配置について」
  - 10月16日(土) 京戸慈光「敦煌天台について」
  - 12月18日(土) 浜田瑞美「敦煌英高窟北朝期にみられる白衣仏について」
  - 2月19日(土) 梅 林「敦煌藏経洞研究の両箇問題」
- ⑥ 日本現存中国拓本（含・石刻資料）研究会の開催。

#### 宋代史研究委員会

- ① 『宋史選舉志訳註（三）・付(二)(三)の索引』の編集・刊行●。
- ② 『宋史食貨志訳註（四）』の作成●。
- ③ 『宋史食貨志訳註（五)(六)および総索引』の作成。（以上、前年度の継続）
- ④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）及び語彙索引の作成。
- ⑤ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

#### 明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。（前年度の継続）

#### 清代史(満蒙)の研究委員会

- ① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。
- ② 『A Study of the Bordered Red Banner Archires』の作成●。
- ③ 『内国史院檔（満文）』の作成●。（以上、前年度の継続）

### 近代中国研究委員会※

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係資料の収集・整理。
- ③ 『近代中国研究彙報』第22号の編集・出版。
- ④ 日中現代史研究会の開催。  
5月1日(土) 李 曉東「梁啓超と清末立憲運動」  
7月3日(土) 飯島 渉「マラリアは語る—疫病流行と日中、日台関係」  
11月20日(土) 鹿 錫俊「国民政府の日中紛争終結構想—その形成と展開」  
3月18日(土) 山極 晃「米戦時情報局の『延安報告』—八路軍の対日心理  
作戦について」
- ⑤ 中国調査資料研究会の開催  
8月21日(土) 『戦前期中国実態調査資料の総合的研究』(平成7—9年度科  
研費研究成果報告書)の検討と今度の課題について

### 日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題(Ⅲ)』◎の編集・刊行
- ② 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題(Ⅳ)(Ⅴ)』の作成。(前年度の継続)
- ③ 日本関係洋書解題目録の作成。

### 朝鮮研究委員会

- ① 「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題」の作成。
- ② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

### 中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム社会の構造の研究。
- ② イスラーム関係史料の収集と研究(現代イスラーム世界の動態的研究)。
- ③ ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
- ④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)
- ⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
- ⑥ 隊商貿易史の研究。
- ⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

### チベット研究委員会※

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

### 南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。
- ② インド亜大陸のイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究。
- ③ ムガル期の一次資料（ペルシア語、ウルドゥー語など）を読む研究会の開催。  
(以上、前年度の継続)
- ④ ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。
- ⑤ 辻文庫目録(3)、萩原文庫目録の Index およびモリソン 2 世文庫目録の作成。

### iii. 特別調査研究

#### チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の  
総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】 ；

#### 1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
- ② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベット人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。
- ③ チベット仏教の基本的文献についてのデータベースの作成を継続した。

#### 2) チベット文庫の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	11冊	59冊

#### 3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第5巻 B 5判 1冊 (刊行済)
- ② 『チベット論理学研究』 第7巻 B 5判 1冊 (刊行済)
- ③ 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5判 1冊 (刊行済)



近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】 ；

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務（近代中国研究事務室において常時遂行）
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	628冊	44冊

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第22号 A 5 判 1 冊 （刊行済）

iv. その他の研究助成金による事業

1) 三菱財団法人人文科学研究助成金特別事業

- ① 【課 題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅱ」  
(研究部プロジェクト)

【期 間】 平成10年10月～平成12年9月（2ヶ年間）

【目 的】 ；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、各種の行政関係・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。(財)東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に貢献してきた。今回は、交渉をかさね、世界にさがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化

することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジアの歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

【事業実績概要】 ；

東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A. スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して蒐集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4カ国のうち、今日までにロンドンの大英図書館（旧インド省図書館の敦煌等文書を含む）約16,000点（92,000齣）、パリ国立図書館約7,000点（54,000齣）、北京図書館約9,000点（13,000齣、「一説に約16,000点現存とも言われる」）のマイクロフィルムを積極的に蒐集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、その研究の成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア出土文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所St. ペテルブルグ支所所蔵の非公開文書約19,000点・約250,000齣におよぶ膨大な量のマイクロフィルムを将来することを最大の成果と考えている。また、世界にさきがけて撮影したマイクロフィルムを一般公開することにより、個々の研究成果のほかに日本国内、さらには日露共同研究などの基盤をととのえ、研究体制を組織することも本プロジェクトの目的の一つである。

これまで、St. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土文書の全容については、近年、漸く中国上海古籍出版社刊行の『俄蔵敦煌文献』および『俄蔵黒水城文献』により、主に漢語仏典・西夏語文書を確認することができるようになった。

一方、(財)東洋文庫では1993年より交渉を重ねて、1996年からは、毎年、専門研究者を現地に派遣して予備調査を実施した結果、中国甘粛省敦煌発見の漢文文書のほかに、カラホト（黒水城）将来の西夏語約3,000点、トルファン将来のウイグル語約4,000点、コータン語約1,500点のほか、サンスクリット語約3,000点、チベット語約3,000点、ソグド語、クチャ語、モンゴル語、満洲語、そしてアラビア語・ペルシア語など、他機関所蔵に較べて質・量ともにぬきんでている世界有数の原文書のコレクションであることが確認できた。

従って、(財)東洋文庫では、各民族の言語別に5ヶ年の収集計画を策定し、St. ペテルブルグ所蔵の内陸アジア発見文書を中心にして合計約250,000齣をマイクロフィルムに撮影して収集することにした。三菱財団学術助成金等により平成12年1月現在、オリジナルマイクロフィルム269Reels 172,887frames（齣）を収集することができた。すでに収集できた内陸アジア諸民族の言語のマイクロネガフィルム資料は、ウイグル語、コータン語、ソグド語、サンスクリット語、西夏語、チベット語、満洲語、アラ

ピア語、モンゴル語、漢語などである。

【本年度の具体的な事業実績内容】；

（財）東洋文庫が5ヶ年計画のもとに、世界にさきがけてSt.ペテルブルグ東洋学研究所所蔵の内陸アジア等出土文書のマイクロフィルム約25万齣の収集事業を推進することは、内陸アジアを中心とした総合的歴史研究に格段の進展を促すものと確信する。また、今後の課題としては、将来した原文書のマイクロフィルム資料の分類整理と一般公開のための仮目録を作成することである。この仮目録作成は、単に内陸アジア諸言語の解明にとどまらず、空白の乾燥地帯の内陸アジアの歴史・文化・宗教・社会・経済等の分野における総合的研究の前提条件となるからである。

- (1) 平成8・9年度の助成金事業ではロシアの敦煌・吐魯番・黒水城等文書が、これまでほとんど未整理・未公開であったため、収集後、ただちに、フィルムを反転して、内陸アジア諸言語の専門研究者により、各言語別に整理・分類する作業に着手した。まずウイグル語文書については、東洋文庫研究部中央アジア・イスラム研究委員会の中に特別班をつくり、京都大学の科学研究費補助金「ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究」プロジェクトとの合同により、整理分類の作業に着手した。今までのところウイグル語文献には、各種の宗教教典のほか、13世紀頃の東トルキスタン地方の仏教寺院経済文書や豆、小麦等の収穫リストなどを確認した。ソグド語文献では、その整理・分析の課程で5断片から成る9～10世紀頃のペルシア系の宗教マニ（摩尼）教徒が書いた教訓テキストの一部を復元することを得た。従って、今後、内陸アジア諸言語の整理・分析をしながら、研究を進めることが緊急の課題である。
- (2) St.ペテルブルグ東洋学研究所所蔵の内陸アジア関係文書は、敦煌・吐魯番出土の5世紀から11世紀頃の漢文・チベット語・サンスクリット語・ソグド語・コータン語などのほかに、内陸アジア各地から将来した8～14・5世紀頃のウイグル語、西夏語、そしてモンゴル語、16～19世紀の満洲語・チベット語の文書等に大別されることを確認した。これらの中、平成10年度からは充分な現地調査を経て選別しチベット語抄本約26,000齣、満洲語約30,000齣をマイクロフィルム化して収集した。同11・12年度は、モンゴル語約25,000齣、漢文文書約30,000齣、ペルシア語約27,000齣、チャガタイトルコ語等をフィルム化して収集する予定である。
- (3) 1963・67年モスクワ刊の『アジア諸民族研究所所蔵敦煌漢文写本目録(1)(2)』（中文訳；1999年上海古籍出版社刊『俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所蔵敦煌漢文写卷叙録（上）（下）』）により存在の知られている漢文文書では、平成12年度の東洋文庫・敦煌文献研究委員会の研究成果出版プロジェクト『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集V（補遺編）』に、St.ペテルブルグ東洋学研究所所蔵漢文文書の断片を復元して収載する方向で、法制、戸籍・土地、契約、社邑文書の研究に着手

した。

以上、(財)東洋文庫を拠点として内陸アジア諸民族の言語約25万齣をマイクロフィルムにより収集すると同時に、東洋文庫研究員を中心とした各専門研究者の協力を得て、順次言語別に整理・分析する作業を行う。この作業を達成することによって、公平に国内外の専門研究者に一般公開するとともに、各研究班を組織してこれらの資料にもとづく総合的研究体制の整備に着手する。

【代表者】 佐藤次高研究部長

【分担者】 西田龍雄、池田温、梅村坦、石橋崇雄、福田洋一の各研究員

および熊本裕東京大学教授

## ②【課題】 「イスラーム法廷文書の社会史的研究」

【期間】 平成11年10月～平成13年9月（2ヶ年間）

【目的】；

イスラーム法（シャリーア）は、ムスリムの社会生活を律する実定法であり、婚姻や相続、売買・賃貸借、債権・債務といった日常の各種取引に際して、契約文書が交わされ、イスラーム法廷に登録された。現在、オスマン朝時代のトルコ、シリア、エジプト地域で記帳された法廷台帳（15～20世紀）数万冊が各地の文書館に残されている。

法廷文書を用いた研究は、これまで、もっぱら社会経済の史料として関連するデータを抽出することが先行し、「法廷」史料としての検討が欠けていた。今後は年代記や他の文書史料を併用することによって、地域社会における住民間の社会関係を掘り下げて研究する必要がある。

本研究では、特定の都市・地域に焦点をしばった個別の研究を徹底し地域社会の再構成を行うとともに、イスラーム法廷台帳を相互に比較することによって、イスラーム法や法廷の機能の地域的差異や時代的変容を明らかにする。

【研究実績概要】；

- (1) 都市・地域の個別研究 当該地域に関する法廷文書などの史料群を、現地の文書館で閲覧・収集した。研究分担者が、ダマスカス（三浦）、イスタンブール（林）、トカト（永田）、バルケシル（江川）を担当するとともに、若手研究者（大学院博士課程など）を調査派遣し、文書研究の次世代を育成する。
- (2) 史料のデータベース化 文書史料研究には、史料データの統計的分析が必要であり、このため、収集した史料のデータベース化を行った。データを整理するためのフォーマットの設定や入力作業を協同で行うことにより、互換性をもつデータベ

スの作成をめざす。

- (3) 地域間の比較研究 (1)の都市・地域に加えて、マグリブ、イラン、南アジアなどを含めて、法廷および法廷文書の比較研究をすすめた。このため、海外の専門研究者を招聘する。

【代表者】 三浦徹研究員

【分担者】 永田雄三、林佳世子の研究員および江川ひかり立命館大学助教授

## 2) 生科学工業株式会社寄付金特定事業 (南方史研究委員会)

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [プロジェクト代表：山本達郎]

【期 間】 平成10年度～同12年度 (3ケ年計画)。

本事業は最初平成元年度より6ケ年計画で完了する予定であったが、モリソン2世文庫に関する事業は完了できなかったため、平成7年度より3ケ年をかけてその完成を遂行した。なお、平成10年より新たに東南アジア関係資料の収集・補充を継続する。

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

【事 業】 1) 東南アジア関係の資料の収集・補充・整理および目録の作成を進めた。

## 3) 榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

【期 間】 平成7年度～同11年度 (5ケ年計画)。

平成6年度で完了の予定であったが、コンピュータソフトの作成などに時間がかかり、平成7年度より第2次事業として5ケ年をかけて完成を期する。

【目 的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄氏旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

【事 業】 1) 入力・構成を続行した。

- 2) 図書の整理を完了した図書カードの検索に供した。
- 3) 榎一雄文庫目録(和文・漢文編、欧文編)を刊し、全ての事業を完了した。

## V. 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。

平成11年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、奨励研究員、当該年度受入の外国人研究員、日本学術振興会特別研究員、各大学受入の国内研修教員なども各々の研究の専門分野に応じて、便宜上、12研究委員会のいずれかに所属させた。

### 第1部 中国研究

東亜考古学：飯島武次、関野 雄、田村晃一

古代史：飯尾秀幸、宇都木 章、太田幸男、堀 敏一、松丸道雄

唐代史(敦煌文献)：池田 温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和  
松本 明、岩本篤志

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、竺沙雅章、千葉 暎、中嶋 敏  
長谷川誠夫、柳田節子、吉田 寅、渡辺紘良

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳、山本 進

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦、金田真滋  
安田震一、渡辺 惇、G.R. WAGNER

### 第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦、辻本裕成  
枋尾 武、鳥海 靖、中野真麻理、宮崎修多、柳田征司、山口謡司  
和田恭幸

### 第3部 東北アジア研究

清代史(満洲・蒙古)：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫、岸本美緒

C.A. ダニエルス、中見立夫、細谷良夫、松村 潤、王 其戈

朝鮮：井上和枝、梅田博之、大江孝男、槽谷憲一、武田幸男、古屋昭弘、森岡 康  
山内弘一、吉田光男

### 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦、片山章雄、後藤 明、小松久男、佐藤次高  
志茂碩敏、清水宏祐、薮 勇造、新免 康、杉山正明、永田雄三、花田宇秋  
林 佳世子、林 俊雄、三浦 徹、森安孝夫、八尾師 誠、M.SABRY  
S.DUDOIGNON、鈴木貴久子、山口(松尾)有里子  
チベット：川崎信定、北村 甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星 實千代  
松濤誠達、御牧克己、山口瑞鳳

## 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、辛島 昇  
永積洋子、萩田 博、原 實、三根谷 徹、山崎元一、山本達郎、西尾寛治

## 2. 学術図書出版

### 東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第81巻第1号～第4号 平成11年6月、9月、12月、平成12年3月刊  
A 5判 4冊 全660頁

### 東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko” No.57 1999年刊  
B 5判 248頁

### 東洋文庫各種研究委員会刊行物

#### 日本研究委員会（特別研究資料出版A）

『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅲ』 平成12年3月刊 B 5判 vii+283頁

#### 宋代史研究委員会（特別研究資料出版B）

『宋史選拳志譯註（三）・付（二）（三）索引』 平成12年3月刊 A 5判 333頁

#### 近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第22号 平成12年3月刊 A 5判 122頁

#### チベット研究委員会

『チベット仏教基本文献 第5巻』 平成12年3月刊 B 5判 94頁

『チベット論理学研究 第7巻』 平成12年3月刊 B 5判 182頁

【チベット特別調査研究年次報告】 平成12年3月刊 A5判 13頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

【東洋文庫書報】第31号 平成12年3月刊 A5判 193頁

【東洋文庫新着図書目録】第47号 平成12年3月刊 B5判 76頁

【東洋文庫年報】(平成10年度版) 平成11年12月刊 A5判 74頁

### 3. 講演会

春期 東洋学講座(共通テーマ;中国北方・東北の考古学の新成果)

第449回 平成11年5月11日(火)

「中国北方の新石器文化」 東京大学助教授 大貫 静夫 氏

第450回 平成11年5月18日(火)

「遼寧式銅剣の成立とその系譜」 九州大学助教授 宮本 一夫 氏

第451回 平成11年5月25日(火)

「鮮卑の歴史と文化  
—近年の発掘調査成果を中心に—」 龍谷大学講師 徐 光輝 氏

秋期 東洋学講座(共通テーマ;インド・東南アジアの宗教と女性)

第452回 平成11年10月12日(火)

「初期仏教教団と女性」 名古屋大学講師 田辺 和子 氏

第453回 平成11年10月19日(火)

「東南アジア上座仏教における女性—タイ・ビルマの場合—」  
神田外語大学学長 石井 米雄 氏  
大阪外国語大学講師 原田 正美 氏

第454回 平成11年10月26日(火)

「古典ヒンドゥ教文献にみえる女性」 国際仏教学大学院大学学長  
原 實 氏



特別講演会（不定期）

第1回 平成11年10月12日(火)

「ヌーリー朝（ザンギー朝）とアイユーブ朝期におけるアターベク職」

エジプト・ヘルワーン大学講師 Taef El-Azhari 氏

第2回 平成11年10月22日(火)

「“洪武重典” 説辨析－従〈大明律〉和〈大誥〉談起－」

中国社会科学院考古研究所副所長 張 顯 清 氏

第3回 平成11年12月6日(火)

「What is Mujtahid? Functions and Stratification of

Tabrizi Ulama in the Early Qajar Period.」

ドイツ・バンベルグ大学講師 Christoph Werner 氏

第4回 平成11年12月6日(火)

「サファヴィー朝後期(1666-1736)の宗教・社会構造」

イラン・テヘラン大学講師 Mansur Sefatgol 氏

第5回 平成12年1月14日(金)

「近五十年中国古代国家起源研究的回顧与思考」

中国社会科学院歴史研究所研究員 王 震 中 氏

第6回 平成12年3月8日(水)

「宋代における宦官養子と補蔭制度」

河北大学歴史系教授 游 彪 氏

4. 研 究 会（東洋文庫談話会）

・平成11年12月17日(金)

「隋唐医事淵源考－北朝医事制度と徐之才『薬対』の検討を通じて－」

東洋文庫奨励研究員 岩 本 篤志 氏

・平成12年2月25日(金)

「中国の塩書について－明清・近代－」

駒澤大学文学部教授 渡 辺 淳 氏

・平成12年 3月10日(金)

「清代後期江南における雑捐と善堂」

北九州大学経済学部助教授 山本 進 氏

・平成12年 3月22日(金)

「モリソン文庫の18-19世紀絵画コレクション」

東洋文庫奨励研究員 安田 震一 氏

・平成12年 3月24日(金)

「元朝時代に中国へ伝来したイスラム医学とイスラム料理

－『回回薬方』のイスラム医学書の性質および

『居家必要事類』・『飲膳正要』の回回料理について－」

日本学術振興会特別研究員 鈴木 貴久子 氏

## 5. 学 術 情 報 提 供

### i 研究者養成

東アジア研究 安田 震一 (香港大学客員研究員)

「歴史画に見る東アジアの発展」

中 国 研 究 岩本 篤志 (早稲田大学P.D.)

「中国北朝後期における社会史的研究－東魏から北齊、そして隋唐へ」

東アジア研究 金田 真滋 (東京大学文学博士)

「19世紀東アジアの貿易資本研究」

### ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

#### 1) 国内研究者の受入

渡 辺 淳 内地研修員 (駒澤大学文学部教授)

「近代中国塩政史の研究」(平成11年度1ヶ年間・駒澤大学の依頼)

山 本 進 内地研修員 (北九州市立大学経済学部助教授)

「明清時代社会経済史研究」(平成11年度下半期間・北九州市立大学の依頼)

2) 平成11年度日本学術振興会特別研究員P. D. の受入

鈴木貴久子 (東京外国語大学大学院修了・文学博士)

「前近代アラブ・イスラーム都市社会の  
食生活・食文化の変容に関する基礎的研究」

(平成9年度採用、同10・11年度2ヶ年間東洋文庫受入)

山口(松尾)有里子 (お茶の水女子大学大学院修了・平成9年度東洋文庫奨励研究員)

「オスマン帝国中期における司法・文教組織  
— 「イルミエ」の発展とウラマー (イスラーム学識者) —」

(平成10年度採用、同11・12年度3ヶ年間受入)

3) 外国人研究者の受入

DUDOIGNON, Stephane フランス社会科学高等研究院研究員

「20世紀初頭の中央アジアにおけるムスリム民族運動」

(平成10年9月5日～同12年1月8日・日本学術振興会招聘)

WAGNER, G. Rudolf ドイツ・ハイデルベルグ大学漢学研究所長

「清末民国初期における輿論の研究」(平成11年3月1日～同11年7月31日・私費)

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした中国少数民族  
に関する関係資料の民俗学的研究」

(平成11年9月1日～同12年8月31日・私費)

SABRY, Muhammad エジプト・ヘルワーン大学助教授

「オスマン期エジプトの知と思想1517～1798年」

(平成11年9月以降1ヶ年間・日本学術振興会招聘)

4) 研究者の派遣

5) 外国人研究者への便宜供与

Australia

Penny Herbert Lecturer, Translator, History of Chinese.

Canada

王 國堯 Ph. D. Candidate, School of Graduate Studies, History and Philosophy of Science, Univ. of Toronto.

China (People's Republic)

安 平秋 北京大學中文系教授  
王 鶴鳴 上海圖書館歷史文獻研究所所長  
王 俊偉 〃 譜牒研究中心副研究員  
陳 建華 〃 〃 副主任  
夏 阿昌 〃 〃 館員  
張 敏捷 〃 〃 〃  
李 治亭 吉林省社會科學院歷史研究所副研究員  
王 桂蘭 吉林文史出版社編輯  
江 太新 中國社會科學院經濟研究所研究員  
夏 応元 〃 歷史研究所研究員  
李 錫厚 〃 〃 〃  
王 震中 〃 〃 〃  
陳 祖武 〃 〃 〃  
何 星亮 〃 民族研究所副研究員  
史 金波 〃 〃 研究員  
張 顯清 〃 考古研究所副所長、研究員  
劉 偉文 浙江大學歷史系講師  
熊 遠報 華中師範大學歷史文化學院講師  
游 彪 河北大學歷史系教授  
杜 家驥 南開大學歷史研究所教授  
周 偉洲 西北大學西北歷史研究室主任、教授  
K. Kurmayof 新疆大學歷史學部講師  
方 克立 中國社會科學院研究生院院長、教授  
趙 光遠 〃 〃 教授  
劉 岳兵 〃 〃 院生  
孫 進己 瀋陽東亞研究中心研究員  
清格 爾泰 內蒙古大學蒙古語文研究室主任、副學長  
艾 吉爾 烏魯木齊檔案資料室副主任  
楊 莉 香港中文大學宗教系博士候選人  
王 其戈 モンゴル文化教育大學教授  
朱 蔭貴 中國社會科學院經濟研究所研究員

索	文清	中央民族學院教授
鄒	愛蓮	中國第一歷史檔案館副館長、副研究員
高	換婷	“ 保管利用部保管組科長
田	正平	浙江大學教育學院院長、教授
廖	可斌	“ 人文學院常務副院長、教授
黃	時鑒	“ 歷史系教授
陳	村富	“ 宗教文化研究所所長、教授
王	寶平	“ 日本文化研究所副所長、教授
呂	順長	“ “ 講師
朱	岩石	中國社會科學院考古研究所漢唐研究室員
馬	敏	華中師範大學副學長、教授
虞	和平	中國社會科學院歷史研究所研究員
楊	莉	香港中文大學東亞系博士候選人

China (Taiwan)

謝	國興	中央研究院近代史研究所研究員
邱	淑珍	“ “ 所員

Egypt

Muhammad Sabry	Lecturer of Modern History, Dept. of History, Faculty of Art, Helwan Univ.
----------------	---

France

S. Dudoignon	Fellow Researcher, Institut Francais d'Études sur l'Asie Centrale (Tashkent).
Nguyen Thê Anh	Prof., directeur d'Études à l' École des Hautes Études (Sorbonne).
Jean-Pierre Drège	Directeur de l' École Francaise d'Extrême-Orient.

Germany

R. G. Wagner	Prof., Institute of Chinese Studies, Univ. of Heidelberg.
Christoph Werner	Wissenschaftlicher Assistent, Orientalistik, Lehrstuhl Iranistik, Universität Bamberg.

Iran

Mohammad Rezā · Nasirī	Vice-President, Professor, Univ. of Payam-e Nur.
------------------------	--

- Mansur Sefatgol Lecturer, Tehran University.
- Israel  
 Ehud R. Toledano Prof. of Ottoman and Middle Eastern History,  
 Tel-Aviv Univ.
- Kazakhstan  
 Meruert Abuseitova Prof., Director, Institute of Oriental Studies,  
 Ministry of Science and Higher Education.
- Korea  
 柳 玉 暲 国立中央博物館館員  
 高 東 昊 東京外国語大学校外国語学部助教授  
 河 廷 龍 高麗大学校亜細亜問題研究所研究員  
 鄭 漢 徳 釜山大学校人文学部教授  
 任 大 熙 慶北大学校人文学部副教授  
 李 成 珪 ソウル大学校東洋史学科教授
- Kyrgyzstan  
 Kamchybek Omurzakov Public Assistant to Deputy, The Legislative Assembly  
 of the Jogorku Kenesh (The Parliament) of the  
 Kyrgyz Republic.  
 Anara Tabyshalieva Director, Institute for Regional Studies, Bishkek.  
 Tabaldiev Kubatbek Associate Professor of the Kyrgyz National Univ.
- Mongolia  
 Natsagdorjyin Ariungua Senior Researcher, Institute of History, Academy of  
 Science of Mongolia, Ulaanbaatar.
- Myanmar (Birma)  
 Daw Ni Ni Myint Director, Universities Historical Research Centre  
 AmaraHall Yangon University Campus.  
 U Mya Han Deputy Director, " "
- Russia  
 Boris Riftin Corresponding Member, Russian Academy of  
 Sciences (Moscow).

Turky

- Mahir Aydin Associate Prof. Department of Ottoman and Middle  
Eastern Studies, Istanbul Univ.  
Ilham Sahin Associate Professor of the Marmara Univ (Istanbul).

U. K.

- Frances Wood Curator, Chinese Section, British Library.  
Yu-Ying Brown Head of Japanese Collection, Oriental and India  
Office Collections, The British Library.  
Bonnie S. Mcdougall Prof. of Chinese, School of Asian Studies, Univ. of  
Edinburgh.  
Paul Luft Senior Lecturer in Persian Studies, Univ. of  
Durham ern Centre of Middle Eastern Studies.

U. S. A.

- Mark C. Elliott Assistant Prof., Department of History, Univ. of  
California (Santa Barbara).  
Luke S. Roberts Associate Prof. of Japanese History. Department of  
California (Santa Barbara).  
Steven B. Miles Ph. D., Department of History, Univ. of Washington.

Uzbekistan

- Bakhtiyar Babadzanov Researcher, Institute of Oriental Studies, Academy  
of Sciences, Uzbekistan.

Vietnam

- Nguyen Thi Oanh Researcher, Institute of Chinese and Sino Vietnamese  
Studies, National Center for Social Sciences and  
Humantity of Vietnam.  
Vu Van Sach Deputy Director, National Archive Center No. I.  
Pham Thi Dat Chief of Conservation Division, National Archive  
Center No. III.

### iii 研究会等への会場提供サービス

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	12	23	18	22	9	12	25	16	21	19	21	32	230回
参加人数	111	464	188	182	77	114	415	166	272	131	197	321	2,638人

### iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第80巻4号、第81巻1、2号	各500部
東洋学報第81巻3号	400部
宋史食貨志譯註(二)、(三)	各350部
東洋文庫蔵越南本書目	200部
西藏仏教基本文献(4)	100部
近代中国研究彙報第21号	70部
東洋文庫欧文紀要第56・57号など3種	各50部

### v 参考情報提供サービス

【東洋文庫年報】 平成10年度版 A5判 1冊 74頁 (刊行済)

(上記の出版を含めて、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※なお、《5.学術情報提供》における「図書資料の閲覧(協力)サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I. 図書事業』の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」等については、平成11年度はとくに報告することはない。

## 6. 職員の研究業績

期間：平成11年4月1日～平成12年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他(評論・雑記・座談会等)



飯島 武次

③「古銅器の現在」(『故宮博物院15』、76～77頁、日本出版放送協会、1999年5月)、「中国古代の都市遺跡について」(『中国古代都市の形成』、105～107頁、京都大学人文科学研究所、2000年2月)、⑦「中国古代の都市遺址について」(京都大学人文科学研究所創立70周年記念国際学術シンポジウム、1999年12月4日、要旨：中国古代都市の形成シンポジウムレジメ、41～42頁)。

池田 温

①『唐研究論文選集』(唐研究基金會叢書)(中國社會科學出版社)、1999年12月、519頁)、②“*Acta Asiatica* 78 [*Tun-huang and Turfan studies*]” (The Tōhō Gakkai、2000年3月、141p.)、③「李盛鐸舊藏敦煌歸義軍後期社會經濟文書簡介」(『慶祝吳其昱先生八秩華誕敦煌學特刊』台北、文津出版社、1999年6月、29—56頁)、「東アジア中古の莊園をめぐる一考察——莊・庄の語の起源」(唐代史研究會報告第Ⅷ集『東アジア史における国家と地域』刀水書房、1999年7月、376～401頁)、「東アジア中古の莊園をめぐる一考察——文化史から見た」(『西嶋定生博士追悼論文集 東アジア史の展開と日本』山川出版社、2000年3月、369～386頁)、「研交ノート 唐令と日本令(三) 唐令復原研究の新段階——戴建國氏の天聖令殘本發見研究」(創價大學人文論集12号、2000年3月、103～140頁)、④“Recent Japanese Research on Tun-huang and Turfan” (*Acta Asiatica* 78、2000年3月、pp.86～138)、⑤「待望の中國史學史新著——稻葉一郎『中國の歴史思想』を讀んで」(創文No.414、1999年10月、21～23頁)、「モンゴルの曠野に古碑を採る『モンゴル國現存遺蹟・碑文調査研究報告』」(東方228号、2000年2月、22～25頁)、「佐立治人著「新羅文武王の遺詔について——「律令格式」の語の信憑性」(法制史研究49、2000年3月、265～268頁)、⑧「座談會・先學を語る——鈴木俊先生」(池田雄一・市古宙三・菊池英夫・山本達郎諸氏と、東方學98、1999年7月、155～185頁)「中国の史籍出版五十年をかえりみて」(東方224号、1999年10月、2～3頁)。

石橋 崇雄

①『大清帝國』(講談社選書メチエ174、2000年1月、254頁)、③「多民族国家清朝をめぐる——歴史上の位置付け・時代区分・支配構造・正統性の問題を中心として——」(歴史と地理523、1～10頁、1999年5月)、「清初入関前の無圈点滿洲文檔案『先ゲンギェン=ハン賢行典例』をめぐる——清朝史を再構築するための基礎研究の一環として——」(東洋史研究58-3、52～83頁、1999年12月)、「無圈点滿洲文檔案『先ゲンギェン=ハン賢行典例・全十七条』」(国史館史学8、48～96頁、2000年3月)、⑦「大清帝國考——多民族国家としての支配構造・華夷思想と正統性・キリスト教宣教師の問題等をめぐる——」(第15回東京女子大学《読史会》大会

『帝国を問う——ローマ帝国と清帝国をめぐって——』、東京女子大学、1999年11月3日、要旨：史論53、96～99頁、2000年3月）、⑧「天安門」（月刊しにか11-4、30～31頁、大修館書店、2000年4月）、「後宮の暮らし——御花園・東六宮・西六宮・皇極殿・慈寧宮など」（月刊しにか11-4、36～41頁、大修館書店、2000年4月）、「フリースク向け故宮名所案内」（月刊しにか11-4、50～55頁、大修館書店、2000年4月）。

#### 井上 和枝

③「羅蕙錫の女性解放論の特色と歴史的意義」（女性文学研究創刊号、357～370頁、韓国女性文学会、ソウル、1999年7月）、「朝鮮『新女性』の行動と社会的葛藤——羅蕙錫の『離婚告白書』をめぐって——」（『論集 中国女性史』、中国女性史研究会、吉川弘文館、1999年10月、170～185頁）、⑦「羅蕙錫の女性開放論の特色と社会的葛藤」（羅蕙錫生誕103年記念式、韓国水原市文化会館、1999年4月27日）、朝鮮「新女性の恋愛」（比較家族史学会第35回大会、1999年6月26日、東京学芸大学）。

#### 上野 英二

③「伊勢物語のあそび」（文学10-4、143～155頁、岩波書店、1999年10月）、「狩と恋——伊勢物語ノート——」（成城国文学16、1～19頁、成城国文学会、2000年3月）、⑦「伊勢物語のあそび」（成城国文学会、1999年7月10日）。

#### 梅村 坦

③「遊牧民と定居社会——新疆の事例を中心に」（国立民族学博物館研究報告別冊20〈松原正毅・小長谷有紀・佐々木史郎編〉「ユーラシア遊牧社会の歴史と現在」、587～612頁、1999年3月）、「中央アジアのトルコ化」（『アジアの歴史と文化』8：中央アジア史、70～81頁、同朋舎・角川書店、1999年4月）、「ウイグル人社会とウイグル文化」（『アジアの歴史と文化』8：中央アジア史、106～117頁、同朋舎・角川書店、1999年4月）、⑦「草原・オアシスのシルクロードと現在の中央アジア——中央アジアの人々にとっての歴史」（シルクロードの会、1999年6月）、⑧「中国は多文化共生をなしうるか？」（中央公論1999.11、132～133頁、1999年11月）。

#### 海野 一隆

①『地図に見る日本——倭国・ジパング・大日本』（大修館書店、1999年5月、xviii+197+xxix頁）、③「江戸時代における『二儀略説』の流布」（科学史研究210、93～98頁、日本科学史学会、1999年6月）、「いわゆる『慶長日本総図』の源流」（地図38-1、3～12頁、日本国際地図学会、2000年3月）、④「ハリー地図学史研究奨学金第6回授与」（科学史研究213、10頁、日本科学史学会、2000年3月；地図38-

1、34頁、日本国際地図学会、2000年3月)、⑧「大修館の一冊(海野一隆『地図に見る日本——倭国・ジパング・大日本』)」(月刊しにか10-8、130頁、大修館書店、1999年8月)、「学校で習わなかった歴史」(秋月俊幸『日本北辺の探検と地図の歴史』出版案内、北海道大学図書刊行会、1999年8月)、「間宮海峡の地図への登場」(地図情報19-2、26-29頁、地図情報センター、1999年9月)、「大型絵図刊行の快挙」(川村博忠編『江戸幕府撰慶長国絵図集成』内容見本、柏書房、2000年3月)。

#### 岡田 英弘

①『世界史の誕生 モンゴルの発展と伝統』(筑摩書房、ちくま文庫30-1、1999年8月、286頁)、②“China as a successor state to the Mongol Empire” (*The Mongol Empire and its Legacy*, Brill, Leiden, Boston, Köln, 1999, pp.260-272)、“Haslund’s *Toregut Rarelro rediscovered: Ünen süjigtü qaghucin torghud kiged čing sedkiltü sin-e torghud-ud-un qaghan noyad-un ugh ündüsün-ü ilelkel teüke-yin bičig* by Geleg Choldan” (*Writing in the Altaic World, Studia Orientalia* 87, Finnish Oriental Society, Helsinki, 1999, pp.187-194)、④“Hidehiro Okada, Historian of the Mongols: A Bibliographical Autobiography” (*Bulletin, The IAMS News Information on Mongol Studies*, No.2, 1998, No.1, 1999, pp.99-110)、⑦「皇帝たちの中国」(中国史を学ぶ会、中野区勤労福祉会館、1999年4月5日)、「中国の歴史をどう考えるか」(東アジアの古代文化を考える会、池袋・生活産業プラザ、1999年4月10日、要旨：東アジアの古代文化ニュース310、1-2頁、1999年4月)、⑧「著名人100人アンケート あのとき、何を。今は…… 陽明学を支える怨念」(諸君! 31-12、132-133頁、文藝春秋、1999年12月)。

#### 小名 康之

③「ムガル軍によるフーグリー包囲事件(1632年)——東洋と西洋——」(『青山学院大学総合研究所人文学系研究センター研究叢書』第14号、青山学院大学総合研究所人文学系研究センター、2000年3月)、「ムガル朝とヨーロッパ人」(『岩波講座世界歴史14 イスラーム・環インド洋世界』、257-276頁、岩波書店、2000年3月)。

#### 糟谷 憲一

③「朝鮮ナショナリズムの展開」(『岩波講座世界歴史20 アジアの〈近代〉』、171-196頁、岩波書店、1999年5月)、「第二次大院君政権の権力構造——政権上層部の構成に関する分析」(西嶋定生博士追悼論文集編集委員会編『西嶋定生博士追悼論文集 東アジア史の展開と日本』、541-554頁、山川出版社、2000年3月)。

神田 信夫

- ②『歴代宝案 訳注本第三冊』（沖縄県教育委員会、1998年3月、495頁）、『世界歴史大系 中国史4 明～清』（山川出版社、1999年6月、552頁・付録122頁）、③『関于《朝鮮国来書簿》』（『慶祝王鍾翰教授八十五暨辜慶遠教授七十華誕學術論文合集』、191～195頁、黄山書社、1999年3月）、⑤「中国第一歴史檔案館編『清代琉球国王表奏文書選録』」（満族史研究通信8、満族史研究会、1999年3月）、⑦「東北アジアと中国」（東方学会・日本学術会議東洋学研究連絡委員会シンポジウム「東方学の課題——21世紀へ向けて」、1998年11月27日）、⑧「満学の徒の一人として」（『鍋島直康追悼録』、48頁、鍋島元子、1999年1月）、「小川さんの思い出」（『小川茂久追悼文集』、73～75頁、同刊行会、1999年2月）、「序」（東方学会編『東方回想Ⅰ』、iv～vii頁、刀水書房、2000年1月）。

草野 靖

- ③「隋初戸等制の成立とその意義（下）」（福岡大学人文論叢31-1、719～762頁、福岡大学総合研究所、1999年6月）、「宋代における戸等制の衰退と郷役の変遷」（七隈史学創刊号、13～32頁、福岡大学人文学部内七隈史学会、2000年3月）。

氣賀澤 保規

- ②『中国の正倉院 法門寺地下宮殿の秘宝展図録』（監修、朝日新聞社・博報堂、1999年9月、209頁）、③「法門寺の歴史と舍利供養」（法門寺地下宮殿の秘宝展図録、162～168頁、朝日新聞社・博報堂、1999年9月）、「法門寺」「衣物帳」「真身誌文」の全分析——釈文・分析・読下し」（法門寺地下宮殿の秘宝展図録、169～177頁、朝日新聞社・博報堂、1999年9月）、「則天武后——中国史上の頂点を極めた唯一の女性」（月刊しにか1999-11、32～37頁、大修館書店、1999年10月）、「陳碩真——最初に皇帝を名乗った反乱の女頭目」（月刊しにか1999-11、38～41頁、大修館書店、1999年10月）、「房山雲居寺石経と金剛経——静琬雷音洞を中心に」（阿部慈園編『金剛般若経の思想的研究』、311～330頁、春秋社、1999年10月）、「中国・法門寺出土の宝物と智慧輪」（大法輪67-4、185～189頁、大法輪閣、2000年3月）、「中国武威・天梯山石窟の現状と歴史的背景」（明大アジア史論集5、1～21頁、明治大学東洋史談話会、2000年3月）、④「日本唐代史関連研究成果目録（1998年）」（唐代史研究2、132～147頁、唐代史研究会、1999年6月）、⑤「高世瑜著、小林一美・任明共訳『大唐帝国の女性たち』（月刊しにか1999-10、116～117頁、大修館書店、1999年9月）、⑥「韓偉著『法門寺地宮考古記』（法門寺地下宮殿の秘宝展図録、18～25頁、朝日新聞社・博報堂、1999年9月）、⑦「唐代社会を旅した日本僧——円仁（慈覚大師）と円珍（智証大師）を中心に——」（明治大学公開大学、1999年5月～7月）、「山東青州龍興寺址出土の仏像とその背景」（唐代史研究会・中国中世研究

者フォーラム秋期大会、1999年11月4日)、「法門寺の真身舍利と唐代の舍利供養」(新潟県立近代美術館、1999年11月7日)、「府兵兵士とその社会——『府兵制の研究』の刊行に寄せて」(富山大学東洋史談話会、1999年11月20日)、「隋の煬帝とその時代——隋代史の新たな評価のために——」(明治大学公開大学、1999年10月～12月)、「中国史にみる武士の萌芽——府兵兵士とその社会——」(駿台懇話会、2000年1月26日)、⑧「中国・法門寺地下宮殿の秘宝」(新潟日報、1999年9月15日)、「宮廷文化のきらめき——舍利供養」(新潟日報、1999年10月31日)、「中国にみる武士の萌芽——府兵兵士とその社会」(茗水クラブ会報224、2～5頁、明大・茗水クラブ、2000年2月)。

### 興膳 宏

③“La naissance et le développement de la théorie littéraire en Chine——Des Six Dynasties aux Song.”(京都大学文学部紀要38、pp. 1～85、1999.3.)、「唐詩における月の三つの相——王維・李賀・李商隱——」(『寛文生教授・松本幸男教授退職記念中国文学論集』立命館大学人文学会2000年2月)、「朱子語類論文篇訳注(四)(五)」(木津祐子・斎藤希史と共著、『中国文学報』五八・五九、1999年4月、1999年10月)、⑥フランソワ・マルタン著「近十年のフランスにおける中国文学研究の発展」(下)(中国文学報五八、1999年4月)。

### 辛島 昇

①『南アジアの文化を学ぶ』(放送大学教育振興会、2000年3月、213頁)、②“Kingship in Indian History”(Editor, Manohar, New Delhi, Sept. 1999, 271p.)、③「中世タミル地方における王権と国家」(『岩波講座世界歴史6』岩波書店、1999年7月、291～308頁)。

### 小松 久男

②共著：間野英二編『中央アジア史』(『アジアの歴史と文化』8、同朋舎・角川書店、184～197、208～221頁、1999年4月)、Komatsu Hisao. Obiya Chika & John S. Schocberlein eds. *Migration in Central Asia: Its History and Current Problems*. The Japan Center for Area Studies-National Museum of Ethnology, Osaka, 2000年、245pp、③“Migration in Central Asia as Reflected in the Jadid Writings.” in *Migration in Central Asia: Its History and Current Problems*. Osaka, 2000年、pp.21～33)、⑦“Bukhara-yi Sharif and Istanbul: A Consideration on the Background of the Munazara.” (Islamic Area Studies International Symposium: Islam and Politics in Russia and Central Asia, Maison franco-japonaise, 1999年9月15日)、「中央アジアのイスラーム：歴史と現在」(はたがや

アジア倶楽部、2000年2月4日、渋谷区立幡ヶ谷社会教育館)、⑧「新たな船出：タシュケント訪問記」(史学雑誌108-3、1999年3月、35~37頁)、「中央アジアのイスラム復興 上・下」(『朝日新聞』(大阪版)1999年9月2日・9月9日)。

#### 佐伯 富

①青木正兒博士訳註『茶經索引』(私家版、1999年10月、65頁)、③「中國中世における山西商人(上)」(問題と研究29-1、67~84頁、1999年10月)、同(下)(問題と研究29-2、86~99頁、1999年11月)、「中國近世における山西商人(五代時代)(上)」(問題と研究29-5、86~101頁、2000年2月)、同(下)(問題と研究29-6、78~100頁、2000年3月)。

#### 酒井 憲二

①『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅲ(共編)』(東洋文庫、2000年3月、283頁)、③「近世初期通行の仮名遣いについて——『寛永諸家系図伝』仮名本の表記から——」(国語と国文学77-3、1~16頁、至文堂、2000年3月)、「岩崎文庫貴重書書誌解題稿——古活字版の部(七)——(分担)」(東洋文庫書報31、1~30頁、東洋文庫、2000年3月)、⑥「翻刻『実語教注』」(調布日本文化10、183~210頁、調布学園短期大学、2000年3月)。

#### 妹尾 達彦

②『中国黄土地帯の都市と生態環境の歴史』(妹尾達彦編、文部省科学研究費基盤研究(A)研究成果報告書、2000年3月、120頁)、③「唐代長安東市の印刷業」(唐代史研究会編『東アジアにおける国家と地域社会：主として10世紀以前』東京：刀水書房、1999年7月、200~238頁)、「唐代文化」(新潟県立美術館編『唐皇帝からの贈り物展』、新潟県立美術館、1999年9月、12~15頁)、「関中平原灌漑施設の変遷と唐代長安の面食」(史念海編『漢唐長安城と関中平原』西安：陝西師範大学出版社、1999年12月、42~64頁)、「近代国家と国民広場——現代中国における天安門広場の建築——」(荒木美智雄編『環太平洋を中心とする都市空間の宗教的意味について』、文部省科学研究費基盤研究(A)研究成果報告書、2000年3月、64~87頁)、⑦「関中平原灌漑施設の変遷と唐代長安の面食」(中日合作漢唐長安と関中平原第2届學術研討会、陝西師範大学、1999年8月28日)、「Building the Nation Urban Plaza in Modern China, Birth of Tian'anmen Square」(*Conference on the Religious Meaning of Urban Space in the Pacific Rim and Beyond*, 1999年9月21日、筑波大学)、「白渠：関中平野の都市と灌漑の2000年」(立命館大学史学会、立命館大学末川会館、1999年11月23日)、「唐長安城的社会構造」(北京大学歴史系、1999年11月3日)、「唐洛陽城的社会構造」(北京大学中古史研究中心、1999年11月5日)、「都

市と灌漑：関中平野2000年の歴史的経験」（日中共同研究シンポジウム「中国黄土地帯の都市と生態環境の歴史」、つくば国際会議場、2000年3月19日、要旨：『日中共同研究シンポジウム報告要旨録』2000年3月、74～76頁）、⑧「中日歴史地理合作研究的工作進展与主要收穫」（史念海編『漢唐長安城与関中平原』1～2頁、西安：陝西師範大学出版社、1999年12月）。

#### 武田 幸男

③「天理図書館蔵「高句麗広開土王陵碑」拓本について」（朝鮮学報174、35～60頁、朝鮮学会、2000年1月）、「新羅の二人派遣官と外司正」（『西嶋定生博士追悼論文集 東アジア史の展開と日本』同編集委員会編、387～408頁、山川出版社、2000年3月）、⑧「池内宏」（『20世紀の歴史家たち（2）日本編 下』今谷明・大濱徹也・尾形勇・樺山紘一編、139～150頁、刀水書房、1999年11月）。

#### 立川 武蔵

②『シリーズ密教1・インド密教』（立川武蔵・頼富本宏編、春秋社、1999年6月、278頁）『シリーズ密教2・チベット密教』（立川武蔵・頼富本宏編、春秋社、1999年8月、287頁）、“*Mandalas of the Bon Religion, Senri Ethnological Reports 12*”（Tenzin Namdak, Yasuhiko Nagano, Musashi Tachikawa 編、国立民族学博物館、2000年2月、p. xxv, 131頁）、“*Five Hundred Buddhist Deities, Asian Iconography Series 1*”（Musashi Tachikawa, Masahide Mori, Shinobu Yamaguchi, Adroit Publishers, Delhi, p.570）、③“*Creation Myth in the Rgveda, Wisdom in Indian Tradition, Prof. K. P. Jog Felicitation Volume*”（ed. by Shoun Hino, Lalita Deodhar, Pratibha Prakashan, Delhi, 1999, pp. 106～124）、「仏教における時間」（長野泰彦編『時間・ことば・認識』、121～142頁、ひつじ書房、1999年11月）、「三十頌安慧注における識の転変」印度学仏教学研究48—1、249～257頁、日本印度学仏教学会、1999年12月）。

#### C. A. ダニエルズ

③「伊能嘉矩の台湾原住民研究の歴史的価値」（日本順益台湾原住民研究会編『伊能嘉矩所蔵台湾原住民写真集』、19～27頁、順益台湾原住民博物館、台北、1999年3月）、「少数民族の歴史をどうみるのか—近年の研究紹介をかねて」（アジア遊学9、12～32頁、勉誠出版、1999年10月）、「西南中国・シャム文化圏における非漢族の自律的政権——シブソンパンナー王国の改土帰流を実例に——」（アジア・アフリカ文化研究所研究年報34、56～70頁、東洋大学アジア・アフリカ文化研究所、2000年3月）、④「少数民族の謎の歴史」（アジア遊学9、3～11頁、勉誠出版、1999年10月）、⑤“Zanier, Claudio, *Where the Roads Met: East and West in the*

*Silk Production Processes (17th to 19th Century)*”, (*Asian Folklore Studies*, Vol. 56, 423~425頁、1997)、「岸本美緒著『東アジアの「近世」』(史学雑誌108-6、120~122頁、1999年6月)、“Bray, Francesca, *Technology and Gender: Fabrics of Power in Late Imperial China*” (*Asian Folklore Studies*, Vol. 58, 447-450頁、1999)、⑦“Sugarcane Roller Mills in the Dai Cultural Area during the 19th and 20th centuries; technological innovation without a strong market” (Seminário Internacional História E Tecnologia Do Açúcar, Centro de Estudos de História do Atlântico Secretaria Regional do Turismo e Cultura, Madeira, 2000年3月25日)、「西南中国・シャン文化圏の歴史—少数民族の自律的政治権力を中心に」(東洋大学アジア・アフリカ文化研究所創立40周年記念講演会、於東洋大学スカイホール、1999年10月30日)、⑧「中国におけるフィールドワークの可能性」(中国21Vol. 6, 3~24頁、愛知大学現代中国学会、1999年5月31日)。

#### 笠沙 雅章

③「北宋中期の家譜」(笠谷和比古編『公家と武家Ⅱ——「家」の比較史的考察——』、425~444頁、思文閣出版、1999年11月)、「燕京・大都の華嚴宗——宝集寺と崇国寺の僧たち——」(大谷大学史学論究6、1~26頁、大谷大学、2000年3月)、「大蔵経編纂」(大谷大学通信50、22~39頁、大谷大学、2000年3月)、⑦「元代の大蔵経」(大谷学会春季学術講演会、1999年5月20日)、「漢字の歴史と現在」(大谷大学開放セミナー、1999年6月26日)、「遼代の仏教とその影響」(駒沢大学仏教学部学術講演会、1999年11月26日)、「大蔵経の歴史」(大谷大学最終講義、2000年3月25日)。

#### 鶴見 尚弘

⑦「老いのまなざしでみる山梨——アジア比較文化の視点から——」(平成11年度県民コミュニティカレッジ公開講座、1999年11月6日)、「中国の人口・食糧問題」(第3回教育事情研修会、2000年2月11日)。

#### 鳥海 靖

②『日本近現代史研究事典』(松尾正人・小風秀雄氏と共編著、東京堂出版、1999年8月、398頁)。④“Modern and Contemporary History” (*An Introductory Bibliography for Japanese Studies*, Vol. XI, Part II, Humanities 1995-1996, pp. 91~124, Toho Gakkai (東方学会), Japan Foundation, Dec. 1999, Tokyo)、「日露歴史教育セミナーに出席して」(中央史学23、171~178頁、中央史学会、2000年3月)、⑦「近代日本の国際環境と対外政策——19世紀後半から20世紀初めまで——」(日本・ラオオ教育・歴史・地理専門家会議、1999年5月29日、国際教育情



報センター主催、東京)、「日本の初等中等教育における歴史教育と歴史教科書」(日露歴史教育セミナー〈Follow-up Meeting to the Seminar on “Teaching History in Multicultural Societies and Border Areas”〉、1999年6月21日、欧州評議会主催、サンクト・ペテルブルグ)、「日本近現代史における日露関係についての歴史学習——19世紀末から20世紀初めを中心に——」(日露歴史教育セミナー〈Follow-up Meeting to the Seminar on “Teaching History in Multicultural Societies and Border Areas”〉、1999年6月22日、欧州評議会主催、サンクト・ペテルブルグ)、「日本近代史をどう見るか」(福島県中学校教員経験者研修会、1999年11月9日、福島県教育センター主催、福島市)、「外から見た日本、内から見た世界——歴史の相互理解・歴史教科書交換調査の国際会議から」(中央大学学術講演会、1999年11月13日、中央大学主催、国立市)、『品川弥二郎関係文書』第5巻(伊藤隆氏らと共同校訂、尚友倶楽部、1999年7月、373頁)、⑧「岡崎久彦の外交人物伝、小村寿太郎と山県有朋(上)(中)(下)」(岡崎久彦、坂本多加雄氏と、MOKU 7-5・6・7、121~127頁、121~126頁、113~118頁、MOKU出版、1999年4月・5月・6月)。

#### 中嶋 敏

②『宋史食貨志譯注(二)』(中嶋敏編、財団法人東洋文庫刊、1999年4月、270頁、附地図二枚)、③「北宋・南宋、前宋・後宋」稱呼考」(汲古36、35~36頁、汲古書院、1999年12月)。

#### 永積 洋子

②『「鎖国」を見直す』(永積洋子編、1999年5月、山川出版社、220頁)、③「東西交易の中心地台湾の盛衰」(佐藤次高・岸本美緒編『市場の地域史』、山川出版社、326~366頁)、「由荷蘭史料看一七世紀的臺灣貿易」(湯熙勇主編『中国海洋發展史論文集』第七輯上冊、中央研究院中山人文社会科学研究所、35~57頁)、「平戸に伝達された日本人売買・武器輸出禁止令」(日本歴史1999年4月号、67~81頁、1999年4月)。

#### 中野 真麻理

②『柳田文庫所蔵 南島文献解題』(成城大学民俗学研究所編、砂子屋書房、共著、1999年9月)、③「成城大学民俗学研究所所蔵『大岡實録觀世音利生記』について」(国文学研究資料館文献史料部調査研究報告20、101~124頁、1999年6月)、「常陽寺社攷——雨引観音・石守寺など——」(『佛教文学』第24号、39~52頁、2000年3月)、「笠地藏譚」(国文学研究資料館紀要26、223~251頁、2000年3月)。

中見 立夫

- ①『アジアの歴史と文化7：北アジア史』（若松寛ほかと共著、角川書店、1999年4月、225頁）、②*Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St. Petersburg State University*, [compiled by Vladimir Uspensky with assistance from Osamu Inoue. edited and foreward by Tatsuo Nakami] (Tokyo, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1999, 15+530 pp.), ③「“北東アジア”からみた“東アジア”」（浜下武志編『東アジア世界の地域ネットワーク（シリーズ国際交流③）』、57～70頁、山川出版社、1999年5月）、「セミョーノフとモンゴル人部隊——フーヴァー研究所所蔵篠田治策文書中の一文書の紹介——」（『科学研究費補助金研究成果報告書：黒木親慶文書の研究』、10～24頁、原暉之、1999年6月）、「清代歴史檔案与日本的“東洋史”学者」（柏樺主編『慶祝王鍾翰教授八十五暨韋慶遠教授七十華誕學術論文合集』、314～325頁、黄山書社、1999年6月）、“Babujab and His Uprising: Re-examing the Inner Mongol Struggle for Independence” (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* No.57, pp. 137～153、(財)東洋文庫、1999年)、 “Russian Diplomats and Mongol Independence, 1911-1915” (Stephen Kotkin and Bruce A. Elleman ed. *Mongolia in the Twentieth Century, Landlocked Cosmopolitan*, pp. 69～78, M. E. Sharpe, 1999年)、 「盛京宮殿旧蔵「漢文旧檔」と「喀喇沁本蒙古源流」——史料の再検証——」（『科学研究費補助金研究成果報告書：近代中国東北における社会経済構造の変容——経済統計資料、並びに、歴史文書史料からの分析——』、92～110頁、江夏由樹、2000年3月）、④「東アジア近代史学会関連展覧会をめぐって」（東アジア近代史2、128～136頁東アジア近代史研究会、1999年3月）、 「海外満学三題」（満族史研究通信8号、38～46頁、満族史研究会、1999年3月）、 「東アジアの社会変容と国際環境、平成10年度第1回（通算第13回）研究会、セミナー：国際関係史と史料研究」（通信97、73～74頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1999年11月）、 「サンクト・ペテルブルグのモンゴル語典籍・史料——その収集の歴史と現状——」（東方学99、(財)東方学会、2000年1月）、⑦“The Mongol ‘Nationalism’ and Japan, Reexamined” (Japan and the National Identity of its Asian Neighbours During and After the Imperial Era, 1999年6月19日, Copenhagen, Nordic Institute of Asian Studies)、 「サンクト・ペテルブルグの東洋学と満洲語・モンゴル語史料」（第36回野尻湖クリルタイ、1999年7月22日）、 「北京警務学堂・高等巡警学堂与川島浪速」（檔案与北京国際學術討論会、1999年8月17日）、 「モンゴル(1)：モンゴル人にとっての国家、民族、地域」（国際交流基金アジアセンター《アジア理解講座：東アジアの20世紀～抗争から共生へ～》第6回、1999年11月4日）、 「モンゴル(2)：現代モンゴル人にとっての国家、民族、地域観」（同上講座第7回、1999年11月11日）、⑧「ウランフ」

ほか項目執筆（『岩波現代中国事典』、岩波書店、1999年5月）、「近現代の中国＝モンゴル関係」（『現代中国の構造変動、その現段階および21世紀にむけての展望に関する学際的研究／研究成果報告書／』、244～245頁、毛里和子、2000年3月）、「〈近代日本史料に関する情報機関についての予備的考察〉研究会速記録集8：中見立夫氏（98年6月29日）」（『近代日本史料に関する情報機関についての予備的研究』成果報告書、271～309頁、近代日本史料研究会、1999年3月）。

#### 花田 宇秋

③「イスラーム少数派とジャマアの成立」（『岩波講座世界歴史10 イスラーム世界の発展：7～16世紀』、201～222頁、岩波書店、1999年10月）。

#### 林 俊雄

③「古代騎馬遊牧民の活動」（若松寛編『アジアの歴史と文化7 北アジア史』、同朋舎、1999年4月、14～31頁）、「草原世界の展開——中世の中央ユーラシア——」（藤川繁彦編『中央ユーラシアの考古学』、同成社、1999年6月、263～339頁）、「グリフィンの役割と図像の発展——前五世紀まで——」（『西嶋定生博士追悼論文集：東アジア史の展開と日本』、山川出版社、2000年3月、95～110頁）、④「ドイツ考古学研究所の最近の活動」（草原考古通信10、1999年7月、2～4頁）、⑥「タバルディエフ、クバトベク Sh. 「アク＝ベシム出土釈迦如来坐像」（創価大学シルクロード研究センター研究報告2、2000年3月、1～5頁）、⑧「セレンゲの流れにそって——その遺跡と環境——」（エコフロンティア2、1999年4月、30～37頁）、「1995年西モンゴル調査行（3）」（草原考古通信10、1999年7月、10～22頁）。

#### 堀 敏一

③「中唐以後敦煌地域における税制度」（唐代史研究会編『東アジア史における国家と地域』316～336頁、刀水書房、1999年7月）。

#### 古屋 昭弘

②『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（共編、三省堂、1999年12月、624頁）、⑧「『斉民要術』の“V令C”“V著O”について」（中国語学研究開篇19、188～192頁、好文出版、1999年12月）、「朝鮮研究室での河野六郎博士の思い出」（東洋学報81-2、101～104頁、（財）東洋文庫、1999年9月）。

#### 森安 孝夫

②『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』（森安孝夫・オチル共編、大阪大学文学部内中央ユーラシア学研究会、1999年、292頁＋図版多数）、③“On the Uighur

čxšapt ay and the Spreading of Manichaeism into South China.” (R. E. Emmerick, W. Sundermann and P. Zieme (eds.), *Studia Manichaica*. IV. Internationaler Kongress zum Manichäismus, Berlin, 14-18. Juli 1997, Berlin, Akademie Verlag, 2000, pp. 430~440.), “The Sha-chou Uighurs and the West Uighur Kingdom.” (*Acta Asiatica* 78, pp. 28~48, 東方学会、2000年), “From Chinese to Uighur Documents.” (Peter Zieme との共著、『内陸アジア言語の研究』*Studies on the Inner Asian Languages* 14, pp. 73~102, 大阪大学文学部内中央ユーラシア学研究会、1999年)、④「欧州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」(東方学99, 122~134頁, 東方学会、2000年)。

矢沢 利彦

①『国分寺址巡訪 光明の巻』(地人館、2000年1月、342頁)。

柳田 征司

②『時代別国語大辞典 室町時代編四』(共編、三省堂、2000年3月、1052頁)、③「沖縄方言の史的位罫(上)(下)——「キ」(木)「ウキ」(起き)「ウリ」(降り)などの問題——」(国語国文68-4、16~34頁、68-5、38~55頁、1999年4月、5月)、「密参録目録稿」(『平成九~一〇年度科学研究費基盤研究C(2) 禅宗密参録の目録作成と国語学的研究』、1999年6月、1~22頁)、「『華嚴修禪觀照入解脫門義』解題」(高山寺典籍文書綜合調査団編『明恵上人資料第五』、東京大学出版会、2000年2月、201~214頁、奥田勲と共編)、「『華嚴信種義』解題」(高山寺典籍文書綜合調査団編『明恵上人資料第五』、東京大学出版会、2000年2月、289~302頁)、「抄物目録稿(原典漢籍集部一)」(抄物の研究10、1~38頁、2000年2月)、「抄物関係文献目録(追補一)」(抄物の研究10、39~40頁、2000年2月)「岩崎文庫貴重書書誌解題稿——古活字版の部(七)——」(東洋文庫書報31、1~30頁、2000年3月、酒井憲二等と共編)、⑥「華嚴信種義」(高山寺典籍文書綜合調査団編『明恵上人資料第五』、東京大学出版会、2000年2月、217~287頁)。

柳田 節子

②『宋史食貨志譯註(二)』(中嶋敏編、財団法人東洋文庫、1999年4月、全270頁、1~89頁「屯田」項)、『宋史食貨志譯註(三)』(中嶋敏編、財団法人東洋文庫、1999年3月、全490頁、315~388頁「振恤」項)、③「宋代裁判における女性の訴訟」(論集中国女性史、吉川弘文館、340頁、1999年10月、2~17頁)、「宋代の父老——宋朝専制支配に関連して——」(東洋学報81-3、1~26頁、(財)東洋文庫、1999年12月)、⑤「王曾瑜『宋朝階級結構』」(東洋史研究58-1、1999年6月、135~142頁)、「宮沢知之『中国宋代の国家と經濟——財政・市場・貨幣——』」(歴史学研究725、

1999年7月、48～51頁、「游惠遠『宋代民婦的角色与地位』」（中国女性史研究9、1999年11月、67～70頁）、⑧「追憶鄧広銘教授」（紀念鄧広銘先生仰止集、河北教育出版社、1999年3月）、「宋代の女性像」（歴史と地理518、山川出版社、1998年11月、34～35頁）。

#### 山崎 元一

③「構造と展開・南アジア世界」（『岩波講座世界歴史6、南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開』、岩波書店、1999年7月、11～60頁）、「Kingship in Ancient India as Described in Literary Sources and Inscriptions」、(*Kingship in Indian History*, ed. N. Karashima, Delhi, 1999, pp.17～36)、⑦「インドにおけるカースト制度と被差別民——アンベードカルの仏教復興運動を中心として——」（宗会基幹運動研修会講義録、浄土真宗本願寺派宗会事務局、1999年9月、1～59頁）。

#### 山内 弘一

③「京城・貴族の誇り——丁若鏞に於ける貴賤と華夷——」（上智史学44、13～53頁、1999年11月）、「李朝後期知識人の反朱子学批判の一例——清の毛奇齡と日本の古学派批判——」（漢文學、解釋與研究第二輯、51～71頁、1999年11月）、「朝鮮國人李德懋と慕華意識」（朝鮮文化研究7、25～45頁、2000年3月）。

#### 山根 幸夫

①『世界歴史大系中国史（4）明・清』（神田信夫・奥崎裕司・浜島敦俊・森川哲雄・細谷良夫共著、山川出版社、1999年6月、674頁）、『古典研究会小史、汲古書院出版年表』（汲古書院、1999年9月、195頁）、②『増訂本中国史研究入門』上・下（田人隆他訳、社会科学文献出版社、2000年1月、1319頁）、③「郭子章とその著作」（明代史研究27、35～48頁、明代史研究会、1999年4月）、「呂坤与『居官必要』」（趙毅主編『第7屆明史國際學術討論會論文集』、東北師範大学出版社、1999年7月、523～524頁）、「『統修四庫全書総目提要』と『統修四庫全書』」（汲古36、58～63頁、古典研究会、1999年12月）、④「1998年明代史論著目録」（明代史研究27、16～21頁、明代史研究会、1999年4月）、⑤「日本人学生から見た建国大学の回想『大いなる幻影』」（東方218、32～34頁、東方書店、1999年4月）、「谷口規矩雄『明代徭役制度史研究』」（東洋史研究58-1、127～134頁、東洋史研究会、1999年6月）、「呉仁安著『明清時期上海地区的著姓望族』」（東洋学報81-2、87～94頁、（財）東洋文庫、1999年9月）、「佟冬主編『中国東北史』全6巻」（東洋学報81-4、95～101頁、（財）東洋文庫、2000年3月）、⑧「小川尚『明代地方監察制度の研究』序言」（汲古35、5～9頁、汲古書院、1999年6月）、「江嶋寿雄先生著作集出版委員会編『明代・清初の女直史研究』序言」（中国書店、1～7頁、1999年5月）、「故き先輩・後輩を偲ぶ」

(明代史研究27、71～74頁、明代史研究会、1999年4月)、「旧制高等学校とは何であったか」(白陵20、18～19頁、旧制姫路高校同窓会、2000年2月)、「編集後記」(汲古35、60～61頁、古典研究会、1999年6月)、「編集後記」(汲古36、81～82頁、古典研究会、1999年12月)。

#### 吉田 寅

③「『天道溯原』関連資料の調査と研究——『中国キリスト教伝道文書の研究』補遺——」(異文化交流31、1～17頁、1999年5月)、「キリスト教史学会50年史 上」(キリスト教史学53、205～226頁、1999年7月)、④「現代中国キリスト教史研究文献目録」(立正史学東洋史論集11・12合併号、37～65頁、1999年4月)、⑤『明治学院人物列伝——近代日本のもう一つの道——』(キリスト教史学53、185～187頁、1999年7月)、⑦「宋史食貨志〔鹽〕と製鹽技術資料」(異文化交流研究会、1999年6月27日、於新宿区区民センター)。

#### 吉田 光男

①『都市空間の比較社会学』(共著、財団法人放送大学教育振興会、1999年4月、247頁)、『朝鮮の歴史と社会』(編著、財団法人放送大学教育振興会、2000年3月、228頁)、③「朝鮮近世の王都と帝都」(年報都市史研究7、61～68頁、山川出版社、1999年10月)、「朝鮮近世士族の族的結合と「邑」空間——慶尚道丹城県の安東権氏の場合——」(東洋史研究58、89～120頁、東洋史研究会、2000年3月)。

#### 和田 博徳

③「西域土地人物図について——16世紀のシルクロード地図——」(シルクロード研究2、1～21頁、創価大学シルクロード研究センター、2000年3月)、『華僑・華人事典』(弘文堂)(執筆項目。呉尚賢、黄帝子孫、送星廠、ボードウィン銀鉞、ミトキナ、ムセ、孟拱、モゴック、ラノン)、⑦「現存最古のシルクロード詳図の発見」(創価大学アジア研究所、1999年12月8日)。

#### 和田 恭幸

③「浅井了意の仏書とその周辺(三)」(国文学研究資料館紀要26、253～277頁、国文学研究資料館、2000年3月)、⑧『近世初期版本刊記集影(四)——慶長・元和年間(内一七二点)』(共著：岡雅彦・和田恭幸調査研究報告20、125～178頁、国文学研究資料館文献資料部、1999年6月)。

# Ⅲ 業 務 報 告

## 1. 総 務 報 告

### ⅰ 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

#### 理 事 会

- 第307回 開催日 平成11年6月8日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、木田 宏、佐藤次高、斯波義信  
田中正俊、中根千枝、秋山哲兒  
委任状 林健太郎、山本達郎
- 第308回 開催日 平成11年6月8日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、木田 宏、佐藤次高、斯波義信  
田中正俊、中根千枝、秋山哲兒  
委任状 林健太郎、山本達郎
- 第309回 開催日 平成11年12月7日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、木田 宏、佐藤次高  
田中正俊、鶴見尚弘、山本達郎、秋山哲兒  
委任状 斯波義信、中根千枝、若井恒雄

#### 評 議 員 会

- 第141回 開催日 平成11年6月8日(火曜日)  
出席者 岡野 澄、神田信夫、佐竹昭広、中嶋 敏、中田乙一、前田充明  
委任状 奥島孝康、田部文一郎、鳥居泰彦、長尾 真、蓮實重彦  
日比野丈夫
- 第142回 開催日 平成11年12月7日(火曜日)  
出席者 佐竹昭広、中嶋 敏、前田充明  
委任状 岡野 澄、奥島孝康、田部文一郎、鳥居泰彦、長尾 真  
蓮實重彦、日比野丈夫、松村 潤

## ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前期 開催日 平成11年5月25日（火曜日）  
 出席者 北村 甫（委員長）、尾崎 康、斯波義信、竺沙雅章、中嶋 敏  
 西田龍雄、日比野丈夫、森本公誠  
 議 題 1. 平成10年度財団法人東洋文庫事業報告について  
 2. 平成11年度財団法人東洋文庫事業計画について  
 3. その他
- 後期 開催日 平成11年11月26日（金曜日）  
 出席者 北村 甫（委員長）、尾崎 康、興膳 宏、斯波義信、竺沙雅章  
 中嶋 敏、西田龍雄、間野英二  
 議 題 1. 平成11年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
 2. 平成12年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
 3. その他

## 2. 人 事 報 告

### i. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
11. 6. 8	評 議 員	神 田 信 夫	退 任	
〃	〃	関 野 雄	〃	
〃	〃	松 村 潤	就 任	
〃	理 事	神 田 信 夫	〃	
〃	〃	鶴 見 尚 弘	〃	
〃	〃	若 井 恒 雄	〃	
11.12. 7	評 議 員	中 田 乙 一	退 任	
〃	〃	高 木 丈太郎	就 任	

### ii. 委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
11. 4. 1	東洋学連絡委員会委員	興 膳 宏	就 任	
〃	〃	森 本 公 誠	〃	



iii. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
11. 4. 1	研究員 (奨励)	金 田 真 滋	委 嘱	
〃	研究員 (兼任)	飯 尾 秀 幸	〃	
〃	〃	飯 島 武 次	〃	
〃	〃	井 上 和 枝	〃	
〃	〃	糟 谷 憲 一	〃	
〃	〃	新 免 康 雄	〃	
〃	〃	林 俊 雄	〃	
〃	〃	吉 田 光 男	〃	
11.12. 1	〃	堀 敏 一	〃	
12. 1.31	研究員 (奨励)	岩 本 篤 志	辞 任	新潟大学助手就任のため
12. 3.31	〃	安 田 震 一	退 任	

## IV 役 職 員 名 簿

平成12年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	神田外語大学長 京都大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社代表取締役社長
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	木 田 宏	財団法人新国立劇場運営財団顧問
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学学長
〃	中 根 千 枝	日本学士員会員 東京大学名誉教授
〃	林 健 太郎	東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	若 井 恒 雄	株式会社東京三菱銀行相談役
〃	秋 山 哲 兒	財団法人東洋文庫総務部長
監 事	種 田 公 二	株式会社パスコ監査役
〃	茅 野 静 逸	三菱金曜会事務局長
評 議 員	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	高 木 丈 太郎	三菱地所株式会社相談役
〃	田 部 文 一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥 居 泰 彦	慶応義塾塾長
〃	長 尾 真	京都大学学長
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	蓮 實 重 彦	東京大学学長
〃	日比野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授
〃		財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	松 村 潤	日本大学名誉教授

## 2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長
委 員	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	興 膳 宏	京都大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	日比野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学教授
〃	森 本 公 誠	東大寺執事長 華厳宗宗務長
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

## 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W.T. デ・バライ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

#### 4. 職員

(平成12年3月31日現在)

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	佐藤 次高	東京大学教授
〃	研究員(兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	飯尾 秀幸	専修大学助教授
〃	〃	飯島 武次	駒沢大学教授
〃	〃	池田 温	創価大学教授
〃	〃	池端 雪浦	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	石井 米雄	神田外語大学長
〃	〃	石塚 晴通	北海道大学教授
〃	〃	石橋 崇雄	国土館大学教授
〃	〃	市古 宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	井上 和枝	武蔵野女子大学専任講師
〃	〃	上野 英二	成城大学教授
〃	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅田 博之	麗澤大学教授
〃	〃	梅村 坦	中央大学教授
〃	〃	海野 一隆	大阪大学名誉教授
〃	〃	大江 孝男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太田 幸男	東京学芸大学教授
〃	〃	岡田 英弘	常磐大学教授
〃	〃	小名 康之	青山学院大学教授
〃	〃	風間 喜代三	法政大学教授
〃	〃	糟谷 憲一	一橋大学教授
〃	〃	片山 章雄	東海大学助教授
〃	〃	加藤 直人	日本大学教授
〃	〃	辛島 昇	大正大学教授
〃	〃	川崎 信定	東洋大学教授
〃	〃	神田 信夫	明治大学名誉教授
〃	〃	菊池 英夫	中央大学教授
〃	〃	岸本 美緒	東京大学教授
〃	〃	草野 靖	福岡大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員 (兼任)	氣賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
〃	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	〃	酒 井 憲 二	調布学園短期大学長
〃	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
〃	〃	部 勇 造	東京大学教授
〃	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	新 免 康	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所助教授
〃	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	筑波大学助教授
〃	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	名古屋市立大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学教授
〃	〃	千 葉 熒	桐朋学園大学理事長
〃	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学助教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学長
〃	〃	朽 尾 武	成城大学教授
〃	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
〃	〃	鳥 海 靖	中央大学教授
〃	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	永 積 洋 子	城西大学教授
〃	〃	中 野 真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学講師
〃	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀 敏 一	明治大学名誉教授
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
〃	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
〃	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫 司書
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良女子大学教授
〃	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学助手
〃	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
〃	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
〃	〃	吉 田 寅	元立正大学教授
〃	〃	吉 田 光 男	東京大学教授
〃	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	和 田 博 徳	慶応義塾大学名誉教授
〃	〃	和 田 恭 幸	国文学研究資料館助手
〃	研究員（専任）	北 村 甫	東洋文庫理事長
〃	〃	福 田 洋 一	
〃	〃	本 庄 比佐子	
〃	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
〃	東洋文庫長	相 島 宏※
〃	文庫長補佐	西 蘭 一 男※
〃	主 査	志 茂 碩 敏※、小 林 輝 男※
〃	副 主 査	牧 武※
〃	司 書	桜 井 徹、中善寺 慎※、大 町 由起子※ 沢 崎 京 子※、山 村 義 照、篠 崎 陽 子
総務部	部 長	秋 山 哲 兒
〃	課 長	光 田 憲 雄
〃	会 計 係 長	金 子 祐 子
〃	参 事	中 沢 元 幸、橘 伸 子、藤 村 由美子 吉 田 男佐武、長谷川 茂 広

（※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	穂山昌弘 石川重雄 石川美恵 井上直樹 岩永和子 大河原洋子 王 詩倫 木下宗篤 胡 容 現銀谷史明 坂井弘紀 澤本光弘 清水保尚 信加加奈子 鈴木健太郎 鈴木直子 高村武幸 谷家章子 露口哲也 寺嶋達哉 十倉桐子 永瀬峰子 中澤 中 深見和子 福田立子 福地智子 渡辺いづみ
図書部	安宅真弓 岩見 隆 呉 吉煥 加藤良輔 金 俊憲 清水一枝 高木雅弘 高瀬奈津子 高田まゆみ 高田ひさ子 寺西澄子 外川和雅 広瀬洋子 前島佳孝 目黒 輝 呂 静
総務部	豊田典子

## V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野に関する調査研究を、多角的な視点から国際的・学際的・継続的に実施し、かつインフォメーション・センターとして研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

### 1. ユネスコ協力事業

【概要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

#### 【事業内容】

#### (1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、  
濱田正美、堀 直、森川哲雄

#### (2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 2000-2001に「Asian Research Trends の編集・出版」事業（2-1）の参加を申請した。

#### (3) 「日本の思想文献」情報の公開

日本ユネスコ国内委員会の委嘱により、同委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan”日本学術振興会 1959-1975年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）設置事業を企画・実施した。

本事業の実施に際し、株式会社安田総合研究所の後援を受けた。



## 2. 学術情報事業—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

### 2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

#### 【事業内容】

英文の年刊誌“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review”の編集・出版を行なった。本年度は No.10 (2000) を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載、あわせて下記「海外専門家の招聘」(2-2-(3)) 事業による講演記録等を掲載した。A5判変型(1,500部)。

本事業をもって上記「ユネスコ参加事業計画」(1-(2)) に参加の申請を行なった。また、本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセット(東京都町田市)に委託した。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、小松久男、佐藤次高、中里成章、濱下武志、  
山内弘一、山崎元一

### 2-2. 国内外研究情報の収集

【概要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

#### 【事業内容】

##### (1) 国内研究情報の収集

東洋学の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

##### (2) 国外研究情報の収集

##### (2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記のとおりである。

大韓民国：藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習課副主幹）  
8月4日－8月14日

大井 剛（センター調査外事室長） 8月1日－8月11日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウルおよび忠清南道扶餘、公州、大田所在の研究機関を訪問した。調査の実施にあたり次の共同研究員の同行協力を得た。

三山 陵（センター共同研究員、日中藝術研究会主任研究員）

8月1日－8月11日

田才雅彦（センター共同研究員、北海道教育庁文化課調査班主査）

8月1日－8月10日

大韓民国：藤井和夫（前 掲） 10月29日－11月3日

本調査において、ソウルおよび釜山所在の研究機関を訪問した。

中華人民共和国：

藤井和夫（前 掲） 3月3日－3月5日

大井 剛（前 掲） 3月3日－3月5日

徐 光 輝（龍谷大学国際文化学部専任講師） 3月3日－3月5日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、遼寧省大連所在の研究機関を訪問した。

## (2)－B. 講演会の開催

諸外国の研究情報を得、研究者相互の交流を図るため、下記の講演会を開催した。

11月18日（木）

講 師：孫 建 華 中国、内蒙古文物考古研究所主任・副研究員

主 題：内蒙古における遼代の考古学（中国語）

会 場：青山学院大学青学会館

通訳者：徐光輝 龍谷大学国際文化学部専任講師

共 催：東北亜細亜考古学研究会

11月18日（木）

講 師：王 綿 厚 中国、遼寧省博物館長、遼寧大学教授

主 題：高句麗山城の発見と研究（中国語）

会 場：青山学院大学青学会館

通訳者：徐光輝（前 掲）

共 催：東北亜細亜考古学研究会

11月22日（月）

講 師：王 綿 厚 （前 掲）

主 題：高句麗の都市と山城（中国語）

会 場：大阪府立文化情報センター

通訳者：徐光輝（前 掲）

共 催：大阪府文化財調査研究センター

12月14日（火）

講 師：タバルディエフ Tabaldiev, Kubatbek ユネスコ・フェロー  
キルギス共和国、キルギス国立大学助教授

主 題：キルギスタンの考古学調査について（英語、ロシア語）

会 場：東洋文庫講演室

協力者：林 俊雄 創価大学文学部教授

下記の研究会を開催した。

6月12日（土）

講 師：李 清 圭 韓国、嶺南大学校文科大学文化人類学科副教授

主 題：済州島考古学の概要

会 場：東京大学文学部多分野交流演習室

共 催：東北亜細亜考古学研究会

6月12日（土）

講 師：康 昌 和 韓国、済州大学校博物館研究員

主 題：済州島における最近の発掘成果

会 場：東京大学文学部多分野交流演習室

共 催：東北亜細亜考古学研究会

12月3日（金）

講 師：シヨンホル Šongqur（張双福） 中国、内蒙古社会科学院研究員

主 題：モンゴル・ガンジョールについて（モンゴル語）

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：永井 匠 早稲田大学非常勤講師

協力者：中見立夫東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

## (2) - C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度2-2-(2)-Bおよび2-2-(3)に記載した研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記のとおりである。

Wood, Elisabeth Frances(Ms) Curator, China Section, British Library,  
London, UK

Riftin, Boris L. Corresponding Member, Russian Academy  
of Sciences, Moscow, Russia

柳 玉 暲(Ms) 国立中央博物館遺物管理部学芸研究士、ソウル、  
韓国

Hansson, Torkel	Student, Univ. of Stirling, Stirling, Scotland
McDougall, Bonnie S.(Ms)	Professor of Chinese, School of Asian Studies, Univ. of Edinburgh, Scotland, UK
河 廷 龍	高麗大学校亜細亞問題研究所研究員、ソウル、韓国
鄭 漢 徳	釜山大学校人文大学考古学科教授、釜山、韓国
Bradshaw, Ann Lane(Ms)	日本女子大学人間社会学部文化学科講師
Drège, Jean-Pierre	Directeur, Ecole française d'Extrême-Orient (EFEO)
Moëzz Laooani	
Abuseitova, Meruert(Ms)	Director, Institute of Oriental Studies, Ministry of Sciences, Almaty, Kazakhstan
Omurzakov, Kanchybek	Public Assistant to the Deputy of the Parliament of the Kyrgyz Republic, Bishkek, Kyrgyzstan
Chabanol, Elisabeth(Ms)	Correspondent, Le Courrier de la Corée, Korea Herald, Seoul, Korea; France
Babadjanov, Bakhtiyar Mirraimovich	Institute of Oriental Studies, Tashkent, Uzbekistan
Sefatgol, Mansur	Assistant Professor, Univ. of Tehran, Tehran, Iran
Werner, Christoph	Associate Professor, Univ. of Bamberg, Bamberg, Germany
Bouchy, Anne(Ms)	Membre, Ecole française d'Extrême-Orient (EFEO)
Durt, Hubert	フランス国立極東学院京都支部(法宝義林研究所)研究員; 国際仏教学大学院大学教授
Dhiravat Na Pombejra	Lecturer, Dept. of History, Faculty of Arts, Chulalongkorn Univ., Bangkok, Thailand
Mrs. Panitarn Na Pombejra	
Tan Nguyen	第一勸業富士信託銀行本店営業第三部; Vietnam

(2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との交流を促進した。東京支部代表は、クリストフ・サブレ氏(同学院研究員)である。

Sabouret, Christophe      membre contractuel, chargé de recherche, Section de Tôkyô, École française d'Extrême-Orient (EFEO)

フランス国立極東学院と東洋文庫とのあいだに学術交流協定を締結する準備を行なった。また、同学院創立百周年記念事業の準備を進めた（下記5の項、参照）。

### (3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として、海外の専門家を下記の通り招聘した。

王 綿 厚      中華人民共和国、遼寧省博物館長、遼寧大学教授

平成11年11月18日－11月28日      北東アジア地域の考古学・歴史学に関する学術情報の交換、および日本の博物館に関する情報の収集のため招聘し、東京・岡山・大阪・京都・滋賀県草津・奈良所在の関係機関を訪問した。同氏の招聘は、東北亜細亜考古学研究会および財団法人大阪府文化財調査研究センターとの協力のもとに実施し、東京・大阪にて講演会を開催した。

学術交流を目的として、来日中の海外の専門家を、下記のとおり国内において招聘した。

ファン・タン・ハイ Phan Thanh Hai (潘青海)

ベトナム社会主義共和国、フエ遺跡保存センター研究処副処長

ファム・ドク・タン・ユン Pham Duc Thanh Dung (范德成勇)

同研究処研究員

平成11年4月1日－4月7日      東アジア・東南アジア地域の文化・歴史に関する越日相互理解、および歴史的景観・建築物等の保存・修復に関する情報交換を図るため招聘し、東京・愛知県足助・京都・天理・大阪所在の関係機関を訪問した。

孫 建 華      中華人民共和国、内蒙古文物考古研究所主任、副研究員

平成11年11月18日－11月21日      北アジア地域の考古学・歴史学に関する学術情報の交換のために招聘し、東京所在の関係機関を訪問した。同氏の招聘は、東北亜細亜考古学研究会との協力のもとに実施し、東京にて講演会を開催した。

### (4) 研究普及

「Asian Research Trends 和文目次」を刊行した(200部)。

コンピュータネットワーク「インターネット」に公開している東洋文庫ウェブサイトにセンターのホームページを設置し、公開データ等を随時更新した。

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。

下記の機関において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館(通年)

### 3. コンピュータネットワーク事業

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報をコンピュータネットワークを媒体として公開し、内外の研究者・研究機関に提供する。

#### 3-1. 研究情報データベースの作成

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2) 事業において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、ディレクトリ・文献目録として編集する。

##### 【事業内容】

#### (1) 国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。対象分野は次のとおりである。

①アジア歴史学、②アジア言語文学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学

#### (2) 国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるために、資料の収集を行なった。対象分野は次のとおりである。

①中央アジア研究文献、②中東・イスラーム研究文献

#### 3-2. コンピュータネットワークの形成

【概要】 上記「研究情報データベースの作成」(3-1) 事業において編集した学術情報をコンピュータ通信をメディアとして公開し、コンピュータネットワークの形成に寄与する。

##### 【事業内容】

#### (1) 東洋文庫ウェブサイトによる情報の提供

東洋文庫ウェブサイト（ホームページ）において、下記の研究文献目録のデータベースを公開した。

A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B 「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

#### (2) 文部省学術情報センターへの情報の提供

文部省学術情報センターの情報検索サービス（NACSIS-IR）に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供した。

A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」

- B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」  
C「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」  
D「日本における印度学仏教学研究ディレクトリ」  
5月24日に、上記のうちBのデータを更新した。

## 4. 重要文献の研究・保存事業

—アジア重要文化財（文献）の研究・保存—

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

### 4-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

#### 【事業内容】

専門委員：佐藤次高、立川武蔵、御牧克己、湯山 明

#### (1) 「大事譬喩譚」サンスクリット古写本の編集・出版

“Two Sanskrit Manuscripts of the Mahāvastu-avadāna,” by Akira Yuyama.  
Vol. I; Vol. II. <Bibliotheca Codicum Asiaticorum, Nos.15 and 16>

「アジア重要文献覆刻叢書」第15巻・第16巻として、「梵文大事譬喩譚編集刊行委員会」（委員長：湯山明創価大学教授）の委託を受けて同書の編集を行なった。本書は、古代インドの仏教説話集「マハーヴァストゥ・アヴァダーナ」（大事譬喩譚）のサンスクリット古写本2種を複製し、英文解説を付したものである。本年度は2種の写本のうち1種を第1巻として出版した。編者は、湯山明創価大学国際仏教学高等研究所教授である。B4判（800部）。

### 4-2. アジア史料の研究・保存

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存し、研究を行なうとともに広く普及を図る。

#### 【事業内容】

#### (1) 「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

「アジア史料叢刊」シリーズの一点として同書の編集を行なった。本書は、19世紀前半のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。訳注者は、マユリ・ガオシヴァタウン氏およびパイパン・ガオシヴァタウン氏である。

#### (2) 「繊維考古資料の研究」の編集・出版

同書の編集を進めた。本書は、中国・日本をはじめアジア各地に伝存し、または出土した絹・麻などの繊維製品の遺物を、主として自然科学的方法により分析した研究書である。著者は、布目順郎京都工芸繊維大学名誉教授である。

#### (3) 「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を行なった。本書は、朝鮮植民地期に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料について編集・出版するものである。本年度は第1巻「朝鮮古蹟研究會遺稿」を出版し、慶州の新羅古墳に関する発掘調査報告（朝鮮語訳）を収録した。著者は、有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授である。

本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセットに委託した。

#### (4) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

## 5. フランス国立極東学院学術交流事業

**【概要】** フランス国立極東学院と東洋文庫との学術交流の協力関係を確立するため、同学院創立百周年の記念事業を企画・運営する。

### 【事業内容】

#### (1) フランス国立極東学院創立百周年記念事業

同記念事業の準備を進めた。9月20日にフランス国立極東学院院长ジャン＝ピエール・ドレージュ氏が東洋文庫を訪問し、同学院と東洋文庫との学術交流協定に署名した。12月13日、14日に同学院研究員アンヌ・ブッシィ氏および同学院京都支部（法宝義林研究所）研究員ユベール・デュルト氏が来訪し、記念事業の企画について検討した。

フランス国立極東学院東京支部および国際交流基金アジアセンターとの共催により、コロキウム「アジア学の展望」を平成12年5月に東京において開催すべく準備を行なった（上記2-2-(2)-Dの項、参照）。



## 6. 業 務 報 告

### A. 運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

- |     |         |  |                |
|-----|---------|--|----------------|
| 前 期 | 開 催 日   | 平成11年 5 月25日（火）  | 10時30分－11時35分  |
|     | 場 所     | 東洋文庫 3 階会議室  |                |
|     | 出 席 委 員 | 8 名  | 委任状11名         |
|     | 報 告     | 1. 顧問の委嘱について<br>2. 運営委員の委嘱について<br>3. その他<br>センターの職員の削減について<br>所長の再任について    |                |
|     | 議 題     | 1. 平成10年度事業報告及び決算報告について<br>2. 平成11年度事業計画及び予算案について<br>3. センターの設置規程の一部改正について |                |
| 後 期 | 開 催 日   | 平成11年11月26日（金）   | 1 時30分－ 2 時30分 |
|     | 場 所     | 東洋文庫 3 階会議室  |                |
|     | 出 席 委 員 | 6 名  | 委任状12名         |
|     | 報 告     | 1. 運営委員の委嘱について<br>2. 参与の逝去に伴う退任について  |                |
|     | 議 題     | 1. 平成11年度事業中間報告及び収支状況報告について<br>2. 平成12年度事業計画案及び収支予算案について                   |                |

#### 顧問会議

- |  |         |   |               |
|--|---------|---|---------------|
|  | 開 催 日   | 平成11年 5 月25日（火）   | 10時30分－11時35分 |
|  | 場 所     | 東洋文庫 3 階会議室   |               |
|  | 出 席 顧 問 | 1 名   | 委任状 3 名       |
|  | 報 告     | 1. 顧問の委嘱について<br>2. 運営委員の委嘱について                                    |               |
|  | 議 題     | 1. 所長の推薦について<br>2. 平成10年度事業報告及び決算報告について<br>3. 平成11年度事業計画及び予算案について |               |

## B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
11年4. 1	運営委員	小西 正樹	就任	国際交流基金専務理事
4.28	運営委員	石上 英一	就任	東京大学史料編さん所長
7. 1	所長	石井 米雄	再任	
7. 1	顧問	前田 充明	再任	城西大学名誉教授
7. 1	運営委員	池端 雪浦	再任	東京外国語大学教授
7. 1	運営委員	辛島 昇	再任	大正大学教授
7. 1	運営委員	佐々木高明	再任	国立民族学博物館名誉教授
7. 1	運営委員	佐藤 次高	再任	東京大学大学院教授
7. 1	運営委員	斯波 義信	再任	国際基督教大学教授
7. 1	運営委員	竺沙 雅章	再任	大谷大学教授
7. 1	運営委員	戸川 芳郎	再任	二松學舎大學大学院教授
7. 1	運営委員	中根 千枝	再任	日本学士院会員
7. 1	運営委員	山崎 元一	再任	國學院大學教授
7. 1	運営委員	若松 澄夫	退任	文部省大臣官房審議官
7. 6	運営委員	井上 正幸	就任	文部省大臣官房審議官
9. 1	運営委員	山本 有造	退任	京都大学人文科学研究所長
10.10	参与	中村 元	逝去	日本学士院会員
11.11	運営委員	桑山 正進	就任	京都大学人文科学研究所長
12. 1	顧問	平山 郁夫	就任	日本ユネスコ国内委員会会長

## C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
12年3.31	研究員	外池 明江	退職	

## D. 会計報告

### 平成11年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成12年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
事 業 費	80,390	国 庫 補 助 金	79,400
ユネスコ協力事業費	537	財 産 収 入	1
学術情報事業費	11,903	雑 収 入	989
コンピュータネットワーク 事業費	4,568		
重要文献の保存・ 普及事業費	8,136		
フランス国立極東学院 学術交流事業費	446		
人 件 費	54,551		
事 務 費	249		
計	80,390	計	80,390

## 7. 役 職 員 名 簿

平成12年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio(官職指定)。

### A. 役 員

役 職 名	氏 名		現 職
所 長	石 井 米 雄		神田外語大学長、京都大学名誉教授、財 団法人東洋文庫理事
顧 問	岡 野 澄		東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人 東洋文庫評議員
	工 藤 智 規	E	文部省学術国際局長
	平 山 郁 夫	E	日本ユネスコ国内委員会会長
	藤 井 宏 昭	E	国際交流基金理事

役職名	氏名		現職
顧問	前田 充 明		財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
	山本 達 郎		日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
参与	長尾 雅 人		日本学士院会員、京都大学名誉教授
運営委員	池端 雪 浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	石井 溥	E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
	石上 英 一	E	東京大学史料編さん所長
	石毛 直 道	E	国立民族学博物館長
	井上 正 幸	E	文部省大臣官房審議官
	大木 正 充	E	文部省大臣官房審議官
	辛島 昇		大正大学文学部教授、東京大学名誉教授
	草場 宗 春	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
	桑山 正 進	E	京都大学人文科学研究所長
	小西 正 樹	E	国際交流基金専務理事
	佐々木 高 明		財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事長、国立民族学博物館名誉教授
	佐藤 次 高		東京大学大学院人文社会系研究科教授、財団法人東洋文庫理事
	斯波 義 信		国際基督教大学教養学部教授、財団法人東洋文庫理事
	立本 成 文	E	京都大学東南アジア研究センター所長
	竺沙 雅 章		大谷大学文学部教授、京都大学名誉教授
	戸川 芳 郎		二松學舎大學大学院文学研究科教授、東京大学名誉教授
	中根 千 枝		日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
原 洋之介	E	東京大学東洋文化研究所長	
藤井 和 夫		実践女子大学講師	
山崎 元 一		國學院大學文学部教授	
山澤 逸 平	E	日本貿易振興会アジア経済研究所長	

## B. 職 員

室 名	職 名	氏 名
調査外事室	室 長	大 井 剛
	研究員	近 藤 敦 子
普 及 室	室 長	外 池 明 江 子
	研究員	設 楽 靖 子
	参 事	坂 本 葉 子
庶務会計室	室 長	飯 田 隆 子
外 国 人 専 門 員		John Wisnom

## C. 共同研究員

氏 名	現 職
徳 増 克 己	茨城大学人文学部非常勤講師
十 倉 桐 子	
徐 光 輝	龍谷大学国際文化学部専任講師
田 才 雅 彦	北海道教育庁生涯学習部文化課主査
三 山 陵	東洋美術学校中国水墨画科講師
石 丸 由 美	

## D. 臨時職員

平成11年4月1日から平成12年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

内田あかね、河原弥生、木村暁、倉本尚徳、小前亮、斎藤久美子、嶋田英晴、  
 島谷泰子、関谷咲恵、高木文子、趙聖九、西田暢子、野田仁、原山隆広、益井岳樹、  
 森山央朗、山本美華、渡部良子

財団  
法人 東洋文庫年報 平成11年度

---

平成12年 8月 8日 発行

発行者 東京都文京区本駒込 2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

北 村 甫

印刷者 富士リプロ株式会社

発行所 東京都文京区本駒込 2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---